

# 全道造形教育研究大会

## 函館大会

0

創造!



th



ときめき!



感性と知性の出会い 心うるおす造形活動



実感!

主催：北海道造形教育連盟 函館市美術教育研究会

主管：第60回全道造形教育研究大会函館大会実行委員会

後援：北海道教育委員会 函館市教育委員会

渡島美術教育研究会 檜山造形教育研究会 函館市幼稚園協会



平成22年7月28日(水)

会場：函館市立昭和小学校  
太陽の子幼稚園

## 第 60 回

# 全道造形教育研究大会 函館大会

大会テーマ「創造! ときめき! 実感!」

研究主題「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」



第60回の大会を記念して“60”をもとに、2人の子供たちが「創造! ときめき! 実感!」し、笑顔で造形活動に望んでいる姿を、「感性と知性の出会い」を重ねてイメージしている。頬の3つの円は、3つのときを表している。2010年夏、「HAKODATE」から子供たちの笑顔とともに、心うるおす造形活動の“風”を感じ取り、伝えてほしいと願っている。

◇大会シンボルマーク制作

函館市立深堀小学校教諭 佐々木 善 憲



# 目次

---

あいさつ	1
大会日程	6
開・閉会式次第	7
記念講演	8
研究概要 北海道造形教育連盟研究主題	9
函館大会研究主題	11
授業者・提言者・司会者・助言者・記録者一覧表	16
学校法人太陽学院太陽の子幼稚園平面図	17
函館市立昭和小学校平面図	18
公開授業	20
提言	32
全道造形教育ネットワーク	49
北海道造形教育連盟規約	51
全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧	52
平成22年度北海道造形教育連盟名簿	54
函館大会役員一覧	57
アトラクション	60

◇ 表紙デザイン …… 佐々木 善憲 (函館市立深堀小学校教諭)



# 逞しく・あたたかくを形にする 造形教育

北海道造形教育連盟

会長 菅原 清貴

## 造形教育連盟の選暦を記念する大会

2005年の函館での第55回大会から5年の年月が経ちました。この間、北海道造形教育連盟は全道18サークルの皆さんと共に造形教育を通し、本道の子どもの豊かな感性の伸長に責任を果たしてきたと思います。まずは、日々の実践の積み上げに深く感謝申し上げます。さて、戦後函館の地では、1954年の第4回大会を皮切りに、これまで造形研究大会を7回開催していただきました。北海道造形教育連盟60周年記念の年に、本道の玄関である函館で大会を開催できることは、本連盟の新たな門出にふさわしいものと思います。函館・渡島・檜山の道南地域における実践発表の場として、今大会の果たす役割は大変大きく、一層の充実した研究の深まりと広がりが期待されます。

## 子ども達が社会へ出る「旅支度」のひとつとしての造形教育

さて、20世紀は米国が世界の覇権を握った世紀といえます。本世紀となり韓国を中心とした金融至上主義の破綻によりその国力の低下が顕著になってきました。それとともに中国を中心とした新興国の経済発展がめざましく、米国の支配は次第に薄らいできた感があります。このようなパラダイム転換が進行するなかで、我が国は「失われた20年」から立ち直ることができず、世界の中での存在感が低下しつつあることは否めません。また、化石燃料の大量消費にともなう地球温暖化がもたらす気象変動なども深刻で、益々、世界は不安定・不確実・複雑・不明瞭な時代に突入していかうとしています。

最近、NHKのラジオで聴いた話ですが、北海道で障がいを持つ人たちと共にチーズ作りをしている方が、マザー・テレサさんにお会いした時、次は発展途上国の子ども達を救う仕事をしたいとお話したそうです。その時彼女は、何を言っているのですか？というような顔で「世界中で最も心が飢えているのは、日本の子ども達ですよ。自国の子を救いなさい。」と諭されたそうです。雇用不安や先行きの見えない未曾有の財政赤字の中で、未来を失いつつある自国の矛盾が子ども達に影を落としています。

ある経済雑誌で「今こそかわいい子には旅」というコラムを目にしました。中部地区の私立学校の校長をされている中島尚正氏(東大工学部長、放送大学副学長等を経て、2009年に校長就任)が書かれたものです。その中で、「昨今、核家族化した家庭に育ち、近所づき合いも希薄になった。学寮で共同生活を営む機会も減った。そのためか、異質なものととの接触を避け、同質な人とばかりつき合うような若者が増えているように感じる。異質なものととの交わりは時に苦勞や面倒を伴う。だが、社会に出ると、異質なものとどう折り合いをつけていくかが問われることになる。(中略)彼らは(最近の学生)他人と折り合いをつけることがあまりうまくないと思う。人を動かすには人の心を動かさねばならない。しかし、みていると論理だけに頼ってしまう言動がままある。気持ちに思いが至らないためか、些細なことで他人とぶつかってしまう。そして、一度傷ついた関係を修復できず、結果として内にももってしまう。人は、論理や理屈だけでは動かないと体感していないのは、異質なものと交わる経験が少なかったからではないか。」と述べています。中島先生はコラムの最後に、心配かもしれないが、子どもに厳しい経験「旅」を積ませる勇気が必要であると結んでいます。この「旅」での「厳しい経験」を実のあるものにするには、自らの考えを表現し、他の心を認めるあたたかな人格が不可欠です。「旅」支度のために学校があるならば、自らの表現に自信を持ち、他の表現をみとめる造形教育の力は、とても大切な一翼を担うものだと思います。表現することに頼いた時、教師や友達からの「助け舟」が、推進力となり「もう少し頑張ってみよう」という意欲につながります。教師と共に逞しく温かく生きることを大切にす学級経営が、自らの表現にとって重要な役割を果たします。

子ども達が造形活動を通し「楽しいなあ」「素敵だなあ」「美しいなあ」と呟く数を増やす活動を積み上げていく事が、「人間っていいな」と感じるようになるに依る「旅支度」ではないでしょうか。子ども達の創造する活動を通して、子ども自身も教師も造形活動を心の底から楽しむことができれば、その延長線の上に、必ずや混迷の時代を切り開く、ポジティブな生きる力が広がっていくものと考えています。

## 「創造！ときめき！実感！」が子ども達の未来をつくる函館の大会

今回、函館大会のテーマは「創造！ときめき！実感！」であり、研究主題は「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」と設定されています。子ども達の五感を大切に、温かな学級経営を土台とした「感性」と「知性」を関連付ける。函館流の指導が「創造・ときめき・実感」を具現化し、造形教育の重要性と存在価値を広く発信する大会となるでしょう。そして、それは本連盟60周年にふさわしい大会になるものと確信します。北海道の玄関である函館から発信する造形教育が本道教育に一層の力強いインパクトを与えるものと期待されます。

最後になりましたが、本研究大会にご尽力いただいた、函館市美術教育研究会、渡島美術教育研究会、檜山造形教育研究会、函館市幼稚園協会の皆様に、価値ある道南の研究を通し本道の造形教育のさらなる前進を実現していただいたことに、敬意と共に大きな感謝を申し上げます。



## 感性と知性の出会いから “つながる”大会を

第60回全道造形教育研究大会

函館大会実行委員長 中村 吉秀

第60回全道造形教育研究大会函館大会が、渡島美術教育研究会、檜山造形教育研究会の協力を得て道南の大会として開催できますことを心より御礼申し上げます。函館では5年ぶり8回目の開催となり、喜びと共に身の引きしめる思いで取り組んでまいりました。

平成23年度から小学校が、そして平成24年度から中学校が、「新学習指導要領」にもとづく図画工作科と美術科がそれぞれスタートします。そのことを念頭におき、これまでの実践の集積を生かしつつ新たな方向性を照射する節目の大会にしたいと考えております。

感性が、「豊かな知の基礎づくりに大きくかかわっている」といわれております。直接的にかかわり観察・対話し、そこから感動したり気づいたり、驚きを感じたりする体験がベースとなります。そして、興味・関心を広げ思考や想像力を巡らし、感じ取ったことや五感を働かせての表現・鑑賞活動による自己発信の喜びにより、情動全体を調和的に醸成させ、知識知や論理知の発達を促進していくことにつながります。

つまり、知が活性化され理解が深まり、想像が広がって継続性を持つようになるととらえ、感性と知性とを併せ備えた資質の育成をすすめることを重視し、本大会テーマ「創造！ときめき！実感！」そして研究主題「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」を設定しました。

未来を担う子どもたちの豊かな情操を培うために、感性と知性を意図的に出会う場面を、研究焦点化のために「かたちづくり」「ひびきあう」「つながる」3つの“とき”とし、具体的な「学習構築のポイント」（時・場・機会）を提示しました。このポイントが「公開される幼稚園2つ、小学校3つ、中学校3つの授業」の中で適切に絡み、効果的に組み込まれることによって、また言語活動や共通事項についても基本のおさえを確認し、「心うるおす造形活動」が表出すると考えました。

果たして、「心うるおす造形活動」が子どもたちの活動・表情から、見出すことができるでしょうか。研究への自信と不安を抱えながら、各分科会で明るい展望を感じさせる切り口で、研究協議が深まれば来年度の全国大会に“つながる”と思っています。

おわりになりましたが、本大会にかかわりまして様々なご支援、ご助言をいただきました北海道教育委員会、函館市教育委員会、他関係機関団体並びに会場校の皆様、各地からご参会いただいた皆様に深く敬意と感謝を申し上げます。





## 第60回全道造形教育研究大会 函館大会を祝して

函館市教育委員会教育長 多賀谷 智

この度、第60回全道造形教育研究大会が、平成17年度以来5年ぶりに、ここ函館を会場として開催されますことは、本市教育委員会といたしましても大きな喜びであり、全道各地からご参加くださいました多くの先生方に対しまして、心から歓迎申し上げます。

北海道造形教育連盟が、昭和25年の第1回研究大会以来、子どもの豊かな情操を育み、創作や表現活動の喜びを深く味わわせることを目的に研究実践を重ね、本道の教育推進の充実・発展に重要な役割を果たしてこられましたことに、心から敬意を表します。

さて、今日、学校教育においては、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」の育成がますます重要になっております。とりわけ、イメージをふくらませて楽しみながら作る活動や、生活や環境を美しくする造形のよさを実感し、作品のよさを味わう鑑賞などの造形教育は、豊かな感性や情緒を培う大きな役割を担っておりますことから、図画工作や美術の重要性が改めて注目されているものと受け止めております。

こうした中で、本研究大会が「感性と知性の出会い心うるおす造形活動」を研究主題として掲げ、研究授業や全道から参集した先生方の日常実践の交流を通して、研究を深められますことは誠に意義深いものであります。私どもといたしましても、参加された先生方の熱意で実り多い大会となり、本道の造形教育の充実・発展に寄与するものとなるよう、その成果に注目しておりますし、併せて本市の今後の教育にも多くのご示唆をいただけるものと期待しているところであります。

結びに、本研究大会の企画運営に当たられました関係者の皆様のご尽力に対しまして、心から感謝申し上げますとともに、北海道造形教育連盟、函館市美術教育研究会の一層の発展を祈念申し上げ、お祝いの挨拶といたします。



## 子どものより良き変容が見られる 大会となることを願って

渡島美術教育研究会会長 黒田 雅世

また、函館に全道造形教育研究大会がめぐってきました。学習指導要領の移行期や、教育改革のただ中に開催された過去の大会は、そのときそのときの社会情勢を色濃く反映していたと記憶しています。今回は、また新学習指導要領移行期であります。北海道造形教育連盟の目指す「自立と共生の造形教育」が、函館大会の研究主題「感性と知性の出会い」に収斂されていくことを切に願うものであります。

平成21年度の函館市美術教育研究会の実践集録には2つの授業記録の他に10を超える実践が掲載されています。これら一つ一つの実践に触れ、児童・生徒の主体的な造形意欲喚起に情熱を傾ける教師の努力に胸が熱くなりました。

渡島美術教育研究会におきましても「子どもの自己実現」を、「心うるおす造形活動」のめあてとして研究を推進しております。決して派手さや目新しさのある授業公開研究ではありませんが、児童・生徒の側に立った真摯な教材研究や、心を打つ指導実践が積み重ねられています。

本大会においても、緻密な研究理論が組み立てられ、多くの論議が重ねられました。それ故にこそ、決して理論と言葉に流されぬ優れた指導実践に裏付けられた研究大会になると期待しております。児童・生徒がそれぞれに自分自身を発見し、主体的に創造体験を積み、次なる表現活動への意欲を高めることができこそその造形教育であります。

本大会が準備にかかわられた多くの教師の厚い思いを受けて、全道各地からご参集なされた皆様の心に残る大会となることを願っております。

そして、子ども自身が本大会において多くのより良き学びを体験できることを願っております。





## 第60回全道造形教育研究大会 函館大会の開催にあたって

檜山造形教育研究会会長 茶碗谷 稔

夜景と教会群を観光名所と誇る函館市において、第60回全道造形教育研究大会を盛大に開催できますことは、私どもにとりまして大きな喜びであり、ご参会される皆様に心より感謝申し上げます。

本大会は、函館市美術教育研究会、渡島美術教育研究会、そして檜山造形教育研究会が連携・協力し「創造！ときめき！実感！—感性と知性の出会い 心をうるおす造形活動—」を大会テーマ、研究主題に開催されます。

さて、造形活動を通して、「創造的」な力を育むということが、図工美術科の必要とされる一般的な見方でしょう。新学習指導要領の共通事項で示された「形・色などの特徴をとらえ、自分なりのイメージをつくりだす」等の文言からも、対象の形や色などをとらえ、試行錯誤しながら自分なりに新しいものを作り出す力を育む教科であることがわかります。

そのような理念の図工美術科は、今の時代、授業時数で見れば、存続さえ危うい教科であるといえます。PISA等による国際的な学力検査の結果から、大きく揺れ動いている昨今の教育界全体の情勢があり、聞こえは悪いですが受験教科が大切にされる状況などが原因といえるでしょう。しかし、一方、現代の子どもたちの実態として「夢が持てない・主体的に行動しない・自分に自信がない・他者に關心を示さない」等の悲劇的な見方もあります。このような子どもたちの実態を、今の教育の流れで、はたして改善できるのでしょうか。

何が起きるか予測不可能といわれる時代であります。子どもたちに必要な資質能力として、今ある知識・技能を取り入れるだけでなく、豊かな発想で新しい時代をつくる力、すなわち「創造力」が求められています。このことは、これまで図工美術科で大切にしてきた、「みる」力の重要性が、改めて問われることといえるのではないのでしょうか。図工美術科のいう「みる」ことは、造形活動を通して、対象を多面的な方向からみて、自己を更新することであり、すなわち、「みかた」をかえるということでもあります。そのことは「当たり前とされていることを視点を改めて考えてみる」「一般的に言われていることを本当にそうなのか別の角度から考える」そのような視点で考える力を育てることでもあります。そう考えますと、今回の大会は大変重要な役割を担っていると同時に期待も大きいと思われまます。

最後になりますが、本大会の開催にあたり、御指導、御支援を賜りました北海道教育委員会、函館市教育委員会並びに教育関係機関、会場校そして大会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。開催にあたっての挨拶といたします。

# 大会日程



## 第60回 全道造形教育研究大会函館大会

■北海道造形教育連盟研究主題

“わたしを創る”～自立と共生の造形教育をめざして～

■函館大会テーマ

創造！ ときめき！ 実感！

◆研究主題

感性と知性の出会い 心うるおすすめ造形活動

■日 程

7月28日（水）

- 受付・開会式・全体会・講演・ネットワーク会議（函館市立昭和小学校）
- 公開授業・公開保育（函館市立昭和小学校・太陽の子幼稚園）
- 分科会（函館市立昭和小学校）
- 函館・渡島・檜山児童生徒美術展（函館市立昭和小学校）
- レセプション・閉会式（五島軒本店）

8:20	8:50	9:50	11:00	12:30	13:30	16:00	18:00
受 付	開会式 全体会 概要説明	9:55 10:45 公開授業（中）	講 演	昼 食 アトラクション （函館野外館）	分科会 研究協議	移 動	レセプション 閉会式
		10:05 10:50 公開保育（幼）					
		10:00 10:45 公開授業（小）		13:00 15:00 ネットワーク会議			

■講 演 演 題 『子どもの世界をとらえるまなざし』

国立教育政策研究所教育課程センター教育課程調査官  
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

講 師

奥村高明氏

■主 催 北海道造形教育連盟 函館市美術教育研究会

■主 管 第60回全道造形教育研究大会函館大会実行委員会

■後 援 北海道教育委員会 函館市教育委員会  
渡島美術教育研究会 檜山造形教育研究会 函館市幼稚園協会

■会 期 平成22年（2010年）7月28日（水）

■会 場 函館市立昭和小学校 太陽の子幼稚園  
五島軒本店（レセプション）

## 開 会 式

---

	司会 函館大会総務	横岸澤英二
1. 開会のことば	函館大会副実行委員長	黒田 雅世
2. 挨拶	北海道造形教育連盟会長	菅原 清貴
	函館大会実行委員長	中村 吉秀
3. 祝 辞	北海道教育庁渡島教育局長	和田 基興 様
	函館市教育委員会教育長	多賀谷 智 様
4. 来賓紹介	函館大会副実行委員長	土谷 敬
5. 研究概要説明	北海道造形教育連盟研究部長	湯浅 大吾
	函館大会研究部長	西館 純
6. 閉式のことば	函館大会副実行委員長	土谷 敬

## 閉 会 式

---

	司会 函館大会副実行委員長	仲井 靖典
1. 閉式のことば	函館大会副実行委員長	黒田 雅世
2. 挨拶	北海道造形教育連盟会長	菅原 清貴
3. 連盟旗引継	函館 → 札幌	
4. 閉会のことば	函館大会副実行委員長	土谷 敬

# 記念講演

---

◇講師  
奥村高明氏

◇演題

## 『子どもの世界を とらえるまなざし』



私たち学校教育に関わる人々は長く授業研究会という営みを続けてきました。研究授業のために指導案を作成し、授業参観を行って、協議会を実施してきました。そして、目の前の子どもの姿や作品から、子どもが何を感じ、何を考えたのかをとらえ、それを根拠に指導の改善を考えてきました。このような実践を繰り返しながら、私たちはいつのまにか子どもの世界をとらえるまなざしを持つようになっていきます。ただ、それは十分に自覚されたものとはいえ、また経験則が多くを占めています。本講演では、目の前の子どもの姿をどのように見るのか、作品をどのように読むのかということ、全国の実践をもとに具体的に整理していこうと思います。それによって、美術教育が材料や用具、美術館、教科書など多くの資源で生態系のように成立していることを確認し、美術教育の成果や課題などについて再考してみたいと思います。

---

## プロフィール

**奥村高明** (おくむら・たかあき)

略歴：宮崎県内の小中学校教諭、附属小学校教員、宮崎県立美術館学芸課主査を経て2005年より文部科学省初等中等局教育課程課及び国立教育政策研究所調査官、2008年告示の小学校学習指導要領図画工作や2010年通知の学習指導要録の改訂に携わり、これまでに各都道府県政令市等で美術教育に関する講演や研修会指導を行っている。H18～22年度には国立美術館教育普及事業委員会座長として美術館を活用した鑑賞教育充実のための指導者研修に関わる。著書論文多数。近著に「子どもの絵の見方～子どもの世界を鑑賞するまなざし」東洋館出版(2010)、「造形活動における相互行為分析の視座」日本美術教育連合(2009)、上野行一と共著で「モナリザは怒っている～鑑賞する子どものまなざし」淡交社(2008)、「テートの美術館活用術～鑑賞教育の手引き～」美術出版社(出版準備中)がある。

# 北海道造形連盟 研究概要

“わたしを創る”～自立と共生の造形教育をめざして～

TAEM 北海道物語 in 函館劇場の幕開けです

北海道造形教育連盟研究部長 湯浅大吾



## 創造的な想像力を引き出す造形教育を

北海道造形連盟の顧問会に参加したときのことで。顧問の先輩から「最近の子どもたちからは、創造的な技能の衰えを感じる」というお話がありました。そのとき、私は小学校2年生の子どもたちと生活科で藻岩山に行き、集めた落ち葉や木の実で表現活動に取り組むという横断的に取り組んだ学習のことを思い出しました。様々な色や形の造形美を楽しみながら、嬉々として落ち葉を集める子どもを見てふと考えました。「平安や江戸の子どもも同じことを感じ、同じことをしたのではないかと。創造的な技能は、「こう表したい」という創造の意志がベースになくは、その獲得や高まりは期待できません。つまり、子どもが衰えたのではなく、子どもの中に本来備わっている「感性」を造形教育の中で引き出せていないということが問題なのだと考えます。

また、顧問の先輩からは、「研究は、子ども理解を深め、子どもに目を向けることが大切」との指摘を受けました。

## “わたしを創る”～自立と共生の造形教育をめざして～

この北海道造形教育連盟の研究主題はまさに、どのような学びが保証されると子どもの創造的な想像力は働き出し、創造の意志をもって動き出すのかを探究するものです。自分にとって意味あるものを創り出す喜びを味わうために働く感性は、“わたし”の中のみで完結する内部能力ではなく、他とつながり合ってこそ生きて働く力となっていくと考えます。本研究では、“わたし”にとっての意味が他と関わりをもつことによって、価値として共有化されていく学び合いにも目を向けていきたいと思えます。

造形することを通して教育としてどんな生きる力を子どもに育むのか。交流を深めお互いに高め合う中で、各地区サークルの具体的な取り組みから検証され、そして、日常の授業の中で一般化されていくことをめざしていきます。

函館大会では、TEAM 北海道の一員として温かいまなざしをもって子どもを見つめ、そして、子どものために厳しいまなざしをもって授業を見つめようではありませんか。分科会では、参会者一人一人の見方・感じ方・考え方に基づいた授業観が交わされることを期待しています。そのことが、これまで大会作りに尽力されてきた函館地区の皆さんへの真の意味での感謝の意を伝えることにつながり、そして、北海道の造形教育を高めていくことにもつながっていくと考えます。交流を通して持つ帰るお土産を創り出し、お互いに渡し合うそんな大会になればいいなと思っています。



## パワーあふれる函館に期待するもの

珍しく市内に雪がたくさん積もっていた今年の2月に、函館大会に向けた授業者・提言者を対象にした研究説明会に参加する機会を得ました。函館市内のみならず近隣から他校種にわたる多くの参加がありました。

### 大会テーマ

## 創造！ときめき！実感！

### 研究主題

## 感性と知性の出会い 心うるおす造形活動

瀧本事務局長・西館研究部長の研究概要説明では、参加者との熱い議論が交わされました。工藤北海道教育委員会指導主事の講演会では、新学習指導要領に込められた具体的な授業像が分かりやすく示されました。参加された皆さんからは、進むべき方向が共有化された一体感が伝わってきました。

そのあと参加させてもらった新年会では、参会したOB方の数の多さに驚かされました。「裏方のことは心配するな。大会づくりに専念しなさい。」というOBの方々の言葉に、頼もしさと函館美術教育研究会への愛着の深さを感じました。中村会長からは「先達たちが築いてきた道南の造形教育は、地域のものが支えていく。大会はその担い手たちが逞しく育っていく機会にしたい。」という思いもお聞きすることができました。

美術教育を取り巻く環境は、ますます厳しさを増しています。会長のもと大会づくりを通して函館地域の皆さんが、手を携え心をつなぐことで地域の造形教育を支えていこうという力強い意志を感じました。これは、同じ問題を抱える北海道や全国の大会参加者に勇気を与えることでしょう。

開港150年の歴史ある港町函館の地で、造形教育の未来を多いに語り合おうではありませんか。

これまで大会づくりにご尽力されてきた皆さんに、心より尊敬と感謝の意を表したいと思えます。

### 来るべき全道連・日美連共同開催による北海道大会に向けて

函館大会には、来年行われる全道連と日美連の共同開催による北海道大会に向けて、両団体の代表の方も参加されます。私はその折に、北海道・全道連・日美連から各20名、計60名ほどの助言者と提言者の選出をお願いする予定です。それに伴い、全国大会用のメーリングリストを開設し、日常的に交流を深め関係を密にし、一体感のある大会にしたいと考えています。

昨年の旭川大会でのことです。四国のある県から参加された女性の先生がこんなことをおっしゃっていました。「皆さんの様子を見てみると本当に仲が良い。皆さんは普段別々の地域で勤務していらっしゃるのでしょうか。私の県にもやる気のある若者がいるが、点在していてなかなかつながりがもてないでいる。北海道が羨ましい。」と。

広大な北の大地で築き上げることができたチーム北海道のつながりを、参加した全国の皆さんにも広げていく。地域や校種を超えて造形教育に携わる私たちがつながりを深め、子どもたちのための造形教育を明るい未来へつなげていく。是非、そんな大会にしたいと考えています。

また、9月3日には、札幌円山小学校で全国大会プレ大会と北海道造形教育連盟60周年を祝う会を開催します。万障繰り合わせてどうぞご参加ください。



## ◆はじめに

「知識基盤社会」の時代と言われているが、周知のとおり人は知識だけでは生きていくことはできない。感性という人間特有の資質、能力を用いることで、人間関係や情緒を育み、豊かな文化を築いてきた。造形教育もまた、人々や様々な事象と関わり、豊かな感性や知性を育み、心豊かな生活への基盤を創造してきたといえよう。

私たちは今年、歴史ある60回目の全道造形教育研究大会を迎えることができた。この間、様々な教育の潮流があり、その中で造形教育のあり方が論じられてきた。そして、今回の学習指導要領の改訂にともない、新たな意識のもとで学習指導のあり方を求めていくこととなった。

私たちは、人間の存在と造形教育のかかわりの重要性をその根底においてしっかりと見定め、生きる力を育む図画工作・美術教育を創造していかななくてはならない。学習指導を通して知性や感性を習得し、活用することから、学ぶことに喜びを感じ、美しさを生活に取り入れ、創造的で豊かに生活していくことができる子供たちを育てていきたいと願っている。

## ◆大会テーマ「創造! ときめき! 実感!」

前回の函館大会では、地域空間を造形的な素材ととらえ、感性を刺激し、個性を伸長させるという視点から、図画工作・美術の学習指導や地域とのかかわりを柱として研究を進めてきた。

今大会では、その成果と課題をふまえた上で、人間にとって不可欠であり、造形教育の原動力となる「感性」や「知性」を有機的に関連づけた研究実践を行うこととした。

そして、子供たちと教師たちの学習の根幹となる共通のテーマとして、

- 「創造!」 (自分なりの美しさをつくりだそうとすること)
- 「ときめき!」 (自らの造形体験や相互の認め合いから得られる喜び)
- 「実感!」 (達成感や造形活動が実生活で生かされることの体感)



を設定し、造形的な資質や能力の育成を図っていきたいと考えている。

## ◆研究主題「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」

私たちは、研究主題「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」において、平成23年度より順次実施されていく新学習指導要領の内容や教科の目標を具現化する学習を通じて、人間特有の感性と知性を重視し、それらを働かせ、相互に影響させていくような造形教育の在り方を探っていきたいと考えている。新学習指導要領では、「生きる力」の理念を継承し、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、それらを習得・活用・探究する授業づくりの充実による確かな学力の育成を目指している。そこで、本大会では、図画工作・美術での感性と知性の習得や活用を基盤にした造形活動を念頭に置き、自分たちの生活の中で、図画工作・美術や文化を自主的に探究していく意欲や姿勢、態度を育てていきたい。

研究主題を通じ、子供たちが自ら創造し、ときめき、実感できる図画工作・美術を学習することで、子供たち一人一人の人間性を磨き、生涯にわたって必要とされる豊かな情操を培っていくことができると考えている。

○感性 様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを直接的に感じ取る力

○知性 知識や経験に照らして論理的・類推的に思考し、判断する力

## ○心うるおす造形活動とは

学習において、感性と知性の出会いを具体性をもって意図的、有機的に設定し、子供たちがもっている感性や知性を揺さぶり、心に働きかけていくこと



- 自ら喜び、達成感、連帯感、共有感などを実感できる。
- 主体的かつ意欲的に造形活動へ関わることができる。
- 豊かな想像力や表現力を身につける。
- 作品のよさや美しさを感じ取り、味わい、理解を深める。

### ◆研究内容

#### (1) 感性と知性が出会う『3つのとき』の設定

感性や知性は、造形活動の両輪として機能することで、その特性を高めていくことができる。そこで、図画工作・美術の学習内容を「感性と知性が出会う3つのとき」に整理し、研究の視点とした。

##### 【視点1】かたちづくりのとき

○形や色や材料などにかかわって、発想・構想し、創造的な技能を用いるとき

- ・形や色などを用いてイメージする。
- ・形や色などを用いてテーマを発想・構想する。
- ・材料や用具の適切な取り扱い方や技法について理解し身につける。
- ・共通事項に注目した題材（色、形、イメージなどの美的関係性）で学習する。

##### 【視点2】ひびきあうとき

○自他の活動や作品鑑賞を通し、美しさの意味や価値に気づき、共感しあうとき

- ・自分なりの美的、造形的な見方を発見し、認識する。
- ・自他の活動や作品鑑賞を通して、美的価値を発見、創出、追究する。
- ・相互の感じ方の比較や受容・批評などをする。

##### 【視点3】つながるとき

○人、もの、暮らしをもとにした表現や実生活とかかわるとき

- ・友だち、家族、地域人材などに関わる学習
- ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン、機能性や生活などにかかわる表現や探究的学習
- ・自然、歴史、伝統、文化、国際理解などに関わる表現や探究的学習

#### (2) 心うるおす造形活動へのステップ

以下の3つのステップをふまえ、学習を構築し、心うるおす造形活動に迫っていく。

##### ●ステップ1

「感性と知性の出会いのためのアプローチ」の導入 ～ 感性と知性の出会いをどのようにとらえるか

- ・既習の知識・技能への支援と新たな知識・技能の提示、教示
- ・知的好奇心への刺激、揺さぶり（ワークシート、ICT、人材活用、学習形態や場の工夫など）
- ・五感等への刺激、揺さぶり（見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触れる、体感する）
- ・発想・構想・表現の仕方の提示・アドバイス（スキルの提示、教示など）
- ・情意面へのサポート（賞賛・励ましなどの声かけや助言）
- ・感性・知性を育むトレーニング（視覚、知覚への働きかけ、発想・構想のスキルアップ）

## ●ステップ2

**学習構築ポイントの設定** ～ ステップ1のための具体的な学習構築ポイント

- ・新学習指導要領の内容と、「3つのとき」との関連から、育みたい資質・能力を明らかにする。
- ・「感性・知性の出会いのためのアプローチ」をもとに、「学習構築ポイント」を焦点化して、学習に具体性をもって、意図的、有機的に設定して資質・能力を育てていく。
- ・子供たちの実態に応じて「学習構築ポイント」を活用し、子供たちの心に働きかける。

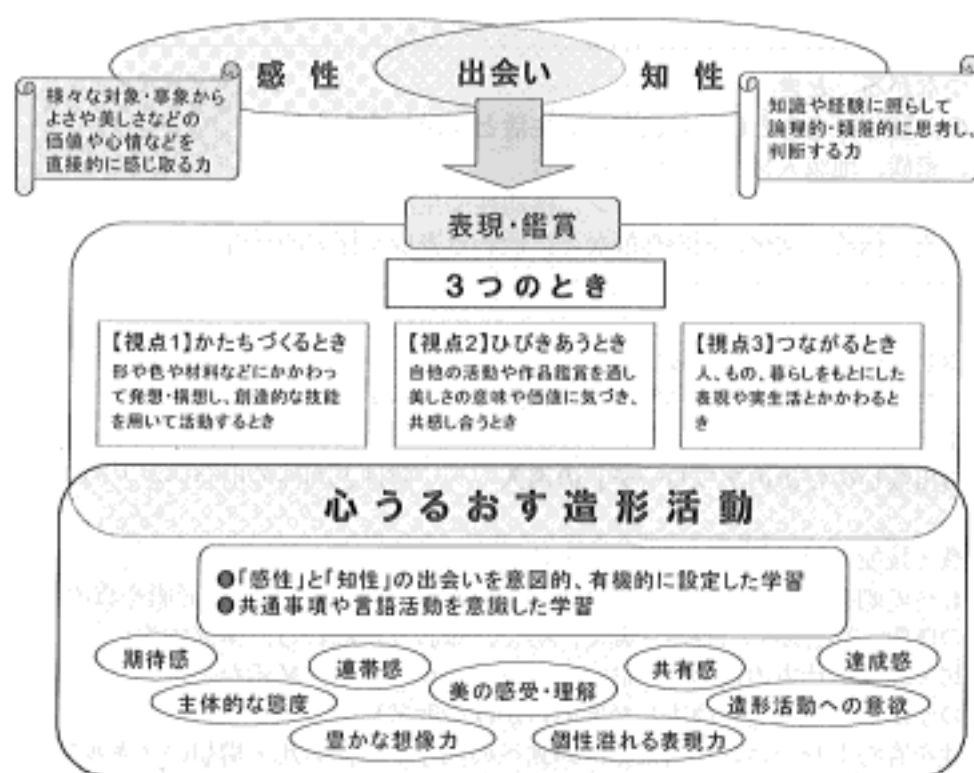
●時	①学習内容に応じた時間の保証	(継続的な活動、試行錯誤、交流、自己評価等)
	②題材・ワークシート等の提示のタイミング	(動機付け、関心・意欲の継続、向上)
●場	③活動の場の設定	(教室、体育館、野外等の学習の場の確保)
	④美術館などの外部施設の利用	(新しい感性・知性との出会い・経験・感動)
	⑤場に応じた学習形態の工夫	(一斉、グループ、個別等)
●機会	⑥魅力的な題材・材料との出会い	(新しい体験・驚き・ときめき等)
	⑦ICTの活用	(PC VIDEO デジカメ プロジェクター等)
	⑧ビジュアルコミュニケーションの習得・活用	(つながる・ひろがる・わかりあう)
	⑨人材の活用・出会い	(他人の感性・知性・技能との出会い)

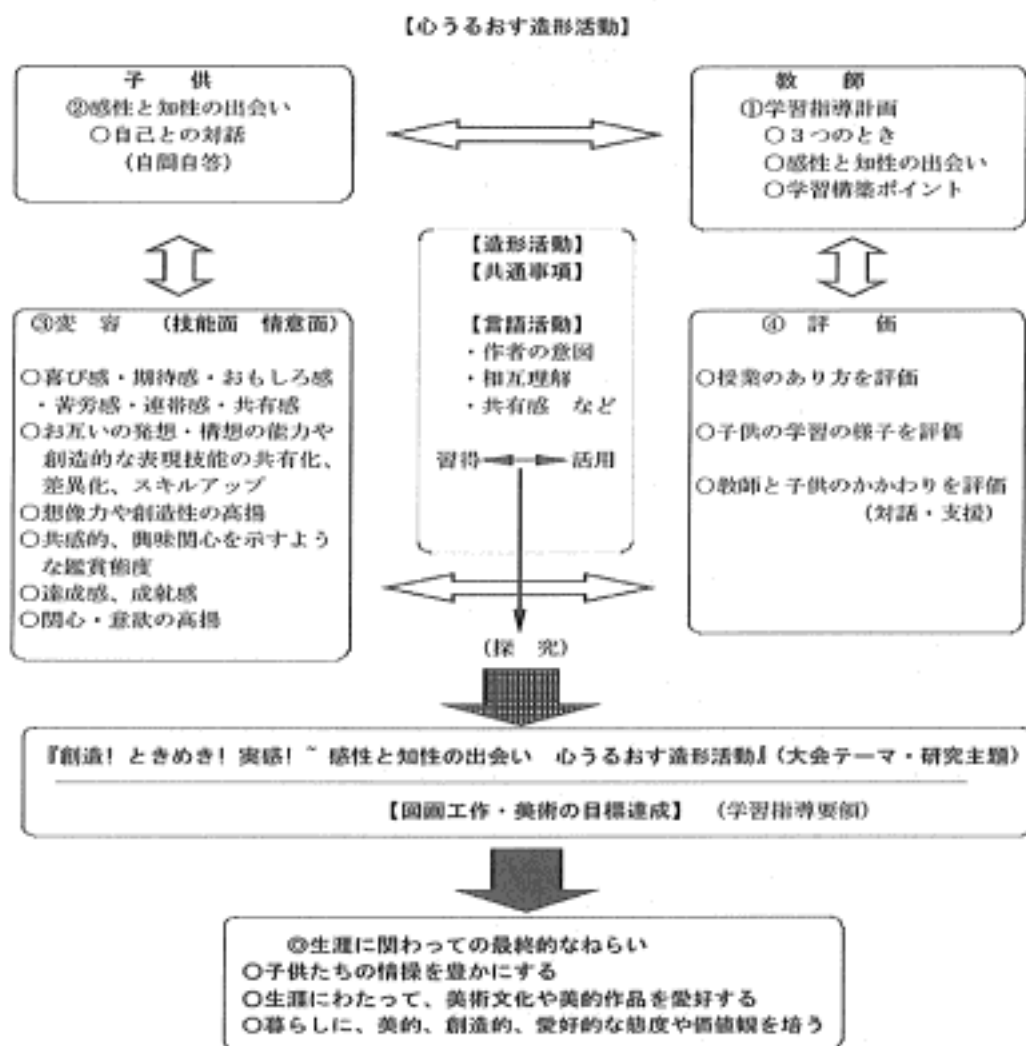
## ●ステップ3

**共通事項や言語活動を意識した学習** ～ ステップ2をより効果的なものにするために

- ・発達段階や題材に応じて共通事項の連続性を意識して学習を進める。
  - ・対話や質問など言語活動を意識して学習に取り入れる。
- 言語活動 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「話し合うこと」、「伝え合うこと」などの活動を、学習構築ポイントに活用し、心うるおす造形活動へと導いていく。
- 共通事項 小中学校を通して色、形、イメージなどの基礎的能力を習得・活用していくという連続性を意識して、必要に応じて学習構築ポイントの中に内容や方法を組み入れていく。

### 【研究の全体構想図】





### (3) 図画工作・美術における習得・活用・探究に関して

本研究会では、新指導要領でふれている「習得」「活用」を、図画工作・美術では、下記のようにとらえ、「心うるおす造形活動」を通じて「習得」「活用」していくことができるだろうと考えている。また、さらに自分たちの生活の中で、図画工作・美術や文化を自主的に探究していく意欲や姿勢、態度を目指していくことができればと願っている。

- 習得 基礎的・基本的な色や形などによるイメージの発想、表現技能、鑑賞方法を学び獲得すること
- 活用 学んだ内容や表現、技能を作品づくりや鑑賞、生活に生かすこと
- 探究 習得したことを活用し、自主的に自分や他の人の感じ方や表現の仕方を探ったり、美術文化にふれようとする意欲と実践的態度

### (4) 「表現」と「図画工作」「美術」のつながりを意識して

- ・材料(素材、色、形)や場の体験、行為に関して、五感や身体を通して揺さぶっていく。
- ・色、形、イメージなど(共通事項)につながる環境の構成を大切にしていく。

#### ○小学校・中学校から見る「領域」「表現」

- ・幼稚園の実践した題材に関連する共通事項は何か。
- ・園児たちの色、形、イメージなどがどのような手段や体験を通じて展開されているか。

#### ○幼稚園から見る「図画工作」「美術」

- ・小学校ではどんな造形遊びをしているのか、幼稚園での表現や体験の内容と比較してみる。
- ・小学校の子供の色、形、イメージなどがどのような手段や活動を通じて展開されているか。
- ・中学校美術のベースにある共通事項は何か。

(5) 「研究内容」と「新学習指導要領」「教育要領」の関連表

視点	かたちづくる とき	ひびきあう とき	つながる とき	
内容	・形や色や材料などにかかわって、発想・構想し、創造的な技能を用いるとき	・自他の活動や作品鑑賞を通し、美しさの意味や価値に気づき、共感しあうとき	・人、もの、暮らしをもとにした表現や実生活とかがわるとき	
関連する授業題材	・イメージに関わる題材 ・材料に関わる題材 ・対象物に関わる題材 ・身体に関わる題材	・美術館などの利用、連携 ・美術文化と表現に関わる題材 ・相互作品鑑賞	・共同制作・生活や地域文化 ・伝統と創造的にかかわっていく題材 ・外部講師を活用した題材 ・表現（デザイン・工芸）および鑑賞に関わる複合題材	
感性と知性の出会いのためのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の知識・技能への支援と新たな知識・技能の提示、教示</li> <li>・知的好奇心への刺激、揺さぶり</li> <li>・五感等への刺激、揺さぶり</li> <li>・発想・構想・表現の仕方の提示・アドバイス</li> <li>・情意面へのサポート</li> <li>・感性・知性を育むトレーニング</li> </ul>			
学習構築ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時 ①学習内容に応じた時間の保証</li> <li>②題材等の提示のタイミング</li> <li>●場 ③活動の場の設定</li> <li>④美術館などの外部施設の利用</li> <li>⑤場に応じた学習形態の工夫</li> <li>●機会 ⑥魅力的な題材・材料との出会い</li> <li>⑦ICTの活用</li> <li>⑧ビジュアルコミュニケーションの習得・活用（つながる・ひろがる・わかりあう）</li> <li>⑨人材の活用・出会い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（継続的な活動、試行錯誤、交流、自己評価等）</li> <li>（動機付け、関心・意欲の継続、向上）</li> <li>（教室、体育館、野外等の学習の場の確保）</li> <li>（新しい感性・知性との出会い・経験・感動）</li> <li>（一斉、グループ、個別等）</li> <li>（新しい体験・驚き・ときめき等）</li> <li>（PC VIDEO デジカメ プロジェクター等）</li> <li>（つながる・ひろがる・わかりあう）</li> <li>（他人の感性・知性・技能との出会い）</li> </ul>		
関連する言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆イメージや思考過程、構想 ◆作品の意図や工夫点・困難点 ◆作品のよさや美しさ</li> <li>◆作者の意図、他者の感じ方 ◆図工・美術について自分の思い◆外部講師や地域の人の話</li> <li>◆図画工作・美術科の用語などを 話す・聞く、書く、話し合う、伝え合う など</li> </ul>			
共通事項	◆発達段階や題材に応じて共通事項の連続性を意識した学習			
教育要領	<p>○感性と表現に関する領域「表現」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。</li> <li>(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ</li> <li>(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ</li> <li>(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ</li> </ul>			
新学習指導要領の要点等	<p>A 表現 - (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形遊び</li> <li>・材料や場所、その過程</li> <li>・行為</li> <li>《創造的な技能》</li> <li>《発想や構想の能力》</li> </ul>	<p>A 表現 - (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵・工作</li> <li>・立体 など</li> <li>《創造的な技能》</li> <li>《発想や構想の能力》</li> </ul>	<p>B 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よさや美しさを感じ取る</li> <li>・身の回りの作品・児童作品・材料</li> <li>・日用品 伝統的な玩具</li> <li>・日本および諸外国の美術</li> <li>・暮らしの中の作品・美術館・博物館 など</li> </ul>	
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○低学年 形や色、質感など 感覚や活動と一体であるような自分のイメージ</li> <li>○中学年 形や色、組み合わせなど 形や色などの感じを基に自分のイメージ</li> <li>○高学年 形や色、動きや興行きなど造形的な特徴 造形的な特徴を基に自分のイメージ</li> <li>●中学校 形や色彩、材料、光などの性質 もたらす感情の理解 形や色彩の特徴などを基にした対象のイメージの把握</li> </ul>			
中学校	<p>A 表現 - (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じ取ったことや考えたことを基に発想・構想 絵や彫刻などを通して</li> </ul>	<p>A 表現 - (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝える、使うなど目的や機能を考えて発想・構想 デザイン・工芸などを通して</li> </ul>	<p>A 表現 - (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創意工夫・見通しをもって表現する技能</li> </ul>	<p>B 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的なよさ、美しさ、見方や感じ方</li> <li>・生活を美しく豊かにする美術の働き</li> <li>・美と機能性 価値意識</li> <li>・日本および諸外国の美術の文化遺産</li> <li>・伝統と文化環境・美術館・博物館 など</li> </ul>
言語活動の重視				
《造形への関心・意欲・態度》				

## 公開授業

校種・学年	分科会名	題 材 名	授 業 者	
幼稚園	年中	かたちづくりとき	夏だ！海だ！！	稲垣 絵梨 (太陽の子幼稚園)
	年長	ひびきあうとき	キャンプだホイ！！	小川原 愛 (太陽の子幼稚園)
小学校	1年	かたちづくりとき	ともだち いっぱい	堂前 智子 (函館市立昭和小)
	4年	ひびきあうとき	光でうつし出す世界より	水島 賢久 (函館市立中の沢小)
	1年	つながるとき	わくわくこうせつえん	中谷 文武 (函館市立高丘小)
中学校	1年	かたちづくりとき	100色色相環に挑戦！！	佐々木 壮一 (函館市立的場中)
	3年	ひびきあうとき	心を動かす形をつくろう	九千房 政光 (函館市立旭岡中)
	3年	つながるとき	母校の歴史に名を刻め！～100年への挑戦～	櫻井 純 (函館市立深堀中)

## 分科会

番号	分科会名	提言者	助言者	司会者	記録者
1	幼稚園 かたちづくりとき ひびきあうとき つながるとき	吉野 貴子 (函館市立戸井幼稚園)	小平 征雄 (道教育大学函館校教授) 佐藤 篤正 (亀田ゆたか幼稚園長)	小林 恵理子 (道教育大学 附属函館幼稚園)	阿部 真琴 (函館市立五稜中)
2	小学校 かたちづくりとき	山田 光 (函館市立あさひ小) 松田 恭子 (道教育大学附属函館小)	村岡 壽英 (八雲町立相沼小校長) 谷口 光伸 (江差町立南が丘小教頭)	佐郷谷 滋 (函館市立中の沢小)	西 貴子 (函館市立千代ヶ岱小)
3	小学校 ひびきあうとき	小笠原 博子 (函館市立あさひ小) 橋本 英子 (帯広市立広陽小)	細川 敬太郎 (北斗市立久根別小校長) 篠原 寛 (札幌市立西小校長)	三品 充子 (函館市立中央小)	久保杉 由佳 (函館市立あさひ小)
4	小学校 つながるとき	赤坂 巖男 (函館市立中の沢小) 石岡 寿子 (松前町立白神小)	山本 良子 (函館市教育委員会 教育指導課指導主事) 船橋 恭二 (七飯町立大中山小教頭)	高島 純 (七飯町立大沼中 鈴蘭谷分校)	後藤 博子 (函館市立上湯川小)
5	中学校 かたちづくりとき	木村 麻岐 (北斗市立浜分中) 中井 一夫 (道教育大学附属旭川中)	佐藤 昌彦 (道教育大学札幌校教授) 泉 雄大 (稚内市立天北中教頭)	笠松 英治 (函館市立戸倉中)	林 弘実 (函館市立湯川中)
6	中学校 ひびきあうとき	眞鍋 幸恵 (上士幌町立上士幌中) 平井 歩 (札幌市立啓明中)	花岡 康成 (今金町立種川小教頭) 西岡 裕英 (釧路教育局 義務教育指導班指導主事)	岩館こずえ (函館市立亀田中)	米田 康子 (函館市立潮見中)
7	中学校 つながるとき	富尾 拓 (道教育大学附属函館中) 山崎 正明 (千歳市立北斗中)	仲井 靖典 (函館市立凌雲中教頭) 佐々木 幸 (道教育大学釧路校准教授)	三谷 龍司 (函館市立北中)	長峰 詠子 (函館市立西中)



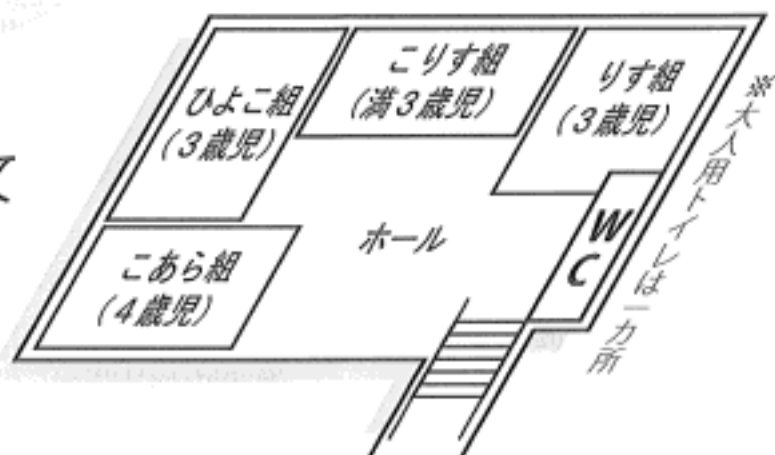
# 第60回全道造形教育研究大会函館大会 会場案内図

## 会場：太陽の子幼稚園

### 1階

#### ※ 公開保育について

…朝、受付後  
全体会終了次第  
幼稚園パスにて  
太陽の子幼稚園へ  
移動

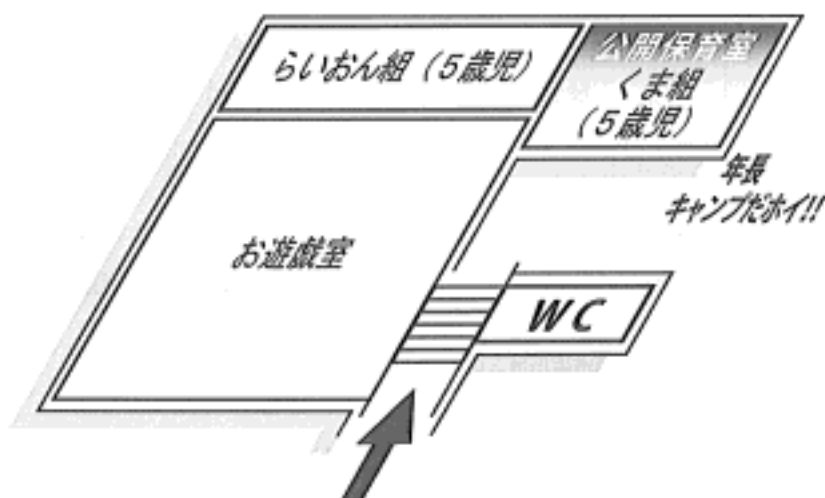


### 中2階

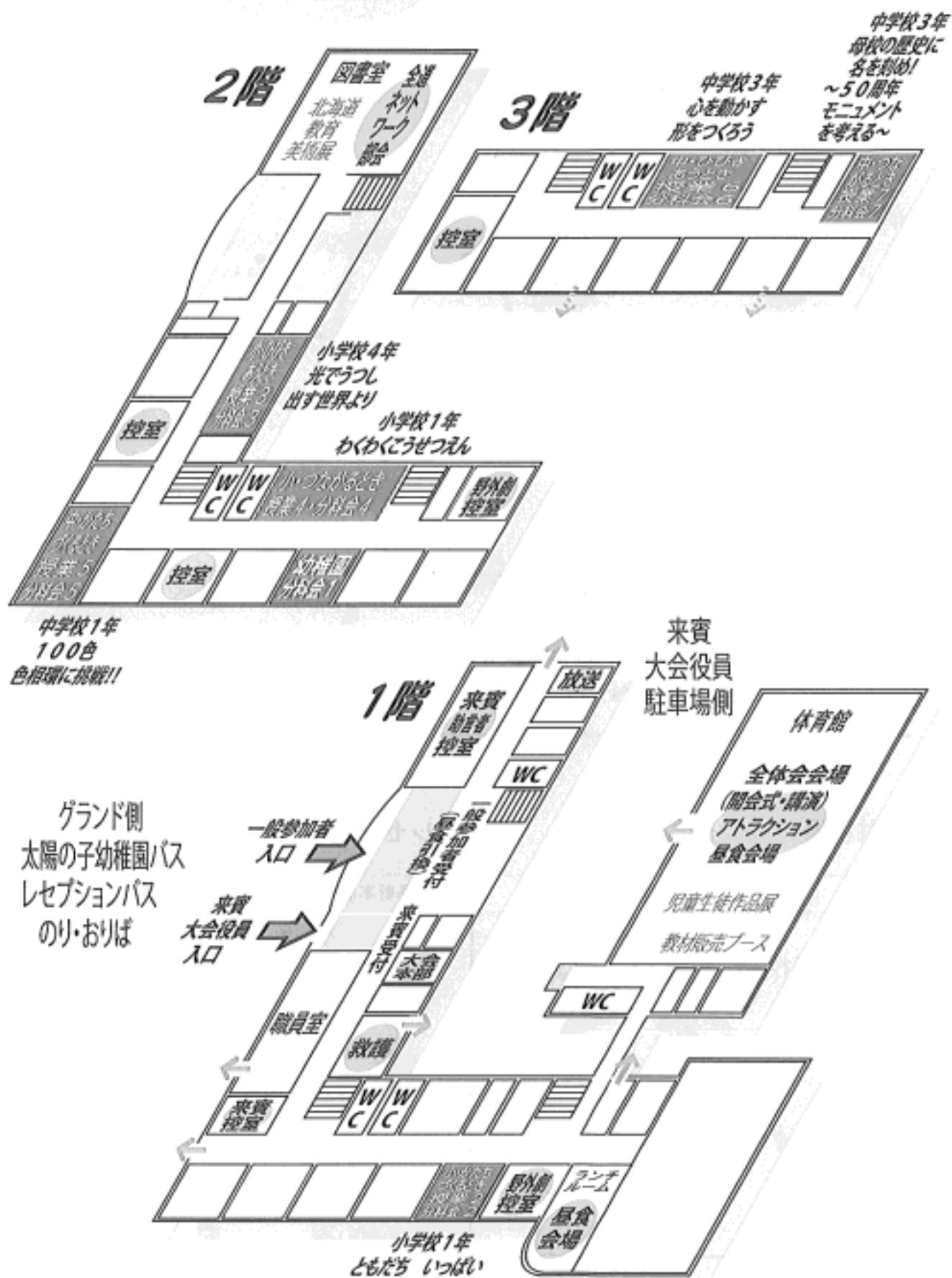
### 2階

#### ※ 講演会・分科会について

…公開保育の後  
太陽の子幼稚園から  
パスで  
昭和小学校へ  
移動

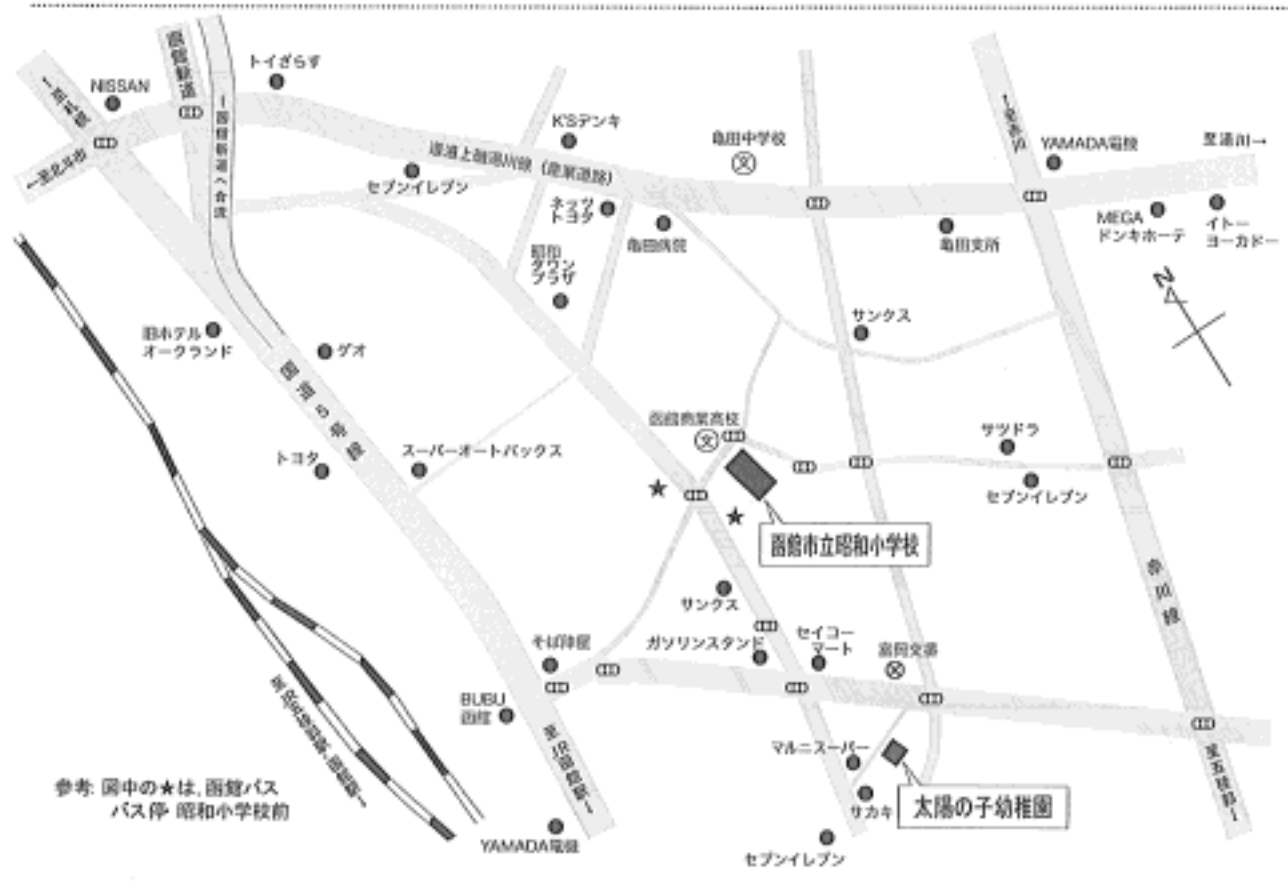


# 会場：函館市立昭和小学校



# 大会会場・レセプション会場 周辺マップ

**大会会場** 函館市立昭和小学校 〒041-0812 函館市昭和1丁目5番5号 TEL.0138-41-4964 FAX.0138-41-4946  
 太陽の子幼稚園 〒041-0811 函館市富岡町1丁目42番12号 TEL.0138-41-1929 FAX.0138-41-2278



## 駐車場



## レセプション会場

※昭和小学校より無料送迎バスが出ます  
 五島軒本店 函館市末広町4番5号 TEL.0138-23-1106




公開授業



## 分科会の公開保育・公開授業一覧

分科会名	授業者	学年	題材名
1 幼稚園 かたちづくりとき	稲垣 絵梨 (太陽の子幼稚園)	幼稚園 年中	夏だ！海だ！！
	小川原 愛 (太陽の子幼稚園)	幼稚園 年長	キャンプだホイ！！
2 小学校 かたちづくりとき	堂前 智子 (函館市立昭和小学校)	小学校 1年	ともだち いっぱい
3 小学校 ひびきあうとき	水島 賢久 (函館市立中の沢小学校)	小学校 4年	光でうつし出す世界より
4 小学校 つながるとき	中谷 文武 (函館市立高丘小学校)	小学校 1年	わくわくこうせつえん
5 中学校 かたちづくりとき	佐々木 壮一 (函館市立的場中学校)	中学校 1年	100色色相環に挑戦！！
6 中学校 ひびきあうとき	九千房 政光 (函館市立旭岡中学校)	中学校 3年	心を動かす形をつくろう
7 中学校 つながるとき	櫻井 純 (函館市立深掘中学校)	中学校 3年	母校の歴史に名を刻め！ ～50周年モニュメントを考える～



	【公開授業】 学校法人太陽学院 太陽の子幼稚園 4歳児		
	「夏だ！海だ！！」		指導者 稲垣 絵梨
	かたちづくりするとき ◎	ひびきあうとき	つながるとき ○

### 1 題材における感性と知性の出会い

- ・季節感を十分に感じさせ、「夏」や「海」のイメージを表現する楽しさを味わわせたい。
- ・思い思いのイメージを大切に、様々な素材を用いた製作活動を楽しませたい。
- ・友だちの刺激を受けながら自分なりにイメージを広げて表現する力を育てたい。

- ### 2 題材の目標
- (1) 水とのかかわりからイメージを膨らませ、表現しようとする意欲を高める。
  - (2) イメージに合うような素材を選び、つくって遊ぶ体験をさせる。


### 3 指導計画

流れ	活動・内容	育みたい資質や能力
6月10日～	・プール保育により、水を楽しむ。	・五感や身体を通じて得られる豊かな感性、季節感
6月15日～	・海の絵本や写真を見る。 ・水遊びのおもちゃづくりをする。	・五感をつかいイメージする力、想像力 ・水遊びへの期待感、発想力
7月～	・水遊びをする。 (色水遊び、的あて遊び、水鉄砲、シャワー、ダムづくりなど)	・水遊びを通じた創造性・発想力 ・友だちとのやりとりを楽しむ (協調性)
本時	・海のイメージや発見を話し合う。 ・個人製作 ・自分の作ったおもちゃで遊ぶ事を楽しむ。	・期待感をもって、自分で形づくりの楽しさ ・イメージを表現する力 ・友だちと遊びを共有する力

### 4 本時案

- ・目標 (1) 様々な素材を使い、海のイメージを膨らませおもちゃ作りを楽しむ。
- (2) 作ったもので遊ぶ楽しさを味わう。

●幼児の活動	○教師の働きかけ	■環境設定
●海のイメージを膨らませる	○子どもの思いや発言を大切に、イメージを膨らませるようことばがけをする。	■写真・絵本などで視覚に訴える
●様々な素材(牛乳パック・発泡トレイなど)を使ったイメージづくり	○いろいろな素材があることに気づかせ、製作活動に意欲が持てるようにする。	■素材に適した用具の準備
●友だちと一緒に遊ぶ	○一人ひとりの様子を見ながら、発達に応じた援助をする。	■雰囲気盛り上げるためのBGM
	○友だちの作品のヒントを知らせたりしながら互いに刺激を受け合えるようにする。	■それぞれが活動できる場の提供
	○作ったもので遊ぶ楽しさを十分に味わわせる。	

	【公開授業】 学校法人太陽学院 太陽の子幼稚園 5歳児		
	「キャンプだホイ！！」 指導者 小川原 愛		
	かたちづくりするとき	ひびきあうとき	つながるとき
	◎		

### 1 題材における感性と知性の出会い

- ・体験前のイメージと、実体験からの学びをとおし、楽しかった思いを形にする喜びを十分に味わわせたい。
- ・素材を十分に活かし、感性をゆさぶる遊びへと発展させていきたい。
- ・イメージが共有化できるよう、グループでの話し合いを大切にし、互いに刺激を受け合えるようにしたい。

- 2 題材の目標** (1) 実体験からのイメージを膨らませ、表現しようとする意欲を高める。  
(2) 自分たちで形にしたものを活用し、皆で遊ぶ楽しさを十分に味わわせる。

### 3 指導計画


流れ	活動・内容	育みたい資質や能力
6月3日～	・キャンプに向けての話聞く (うたや体操で盛り上げていく)	・キャンプへ向けての期待感、想像力
6月7日～	・グループ決め、看板作り ・キャンプ場の実現！ →想像を形にしていこう ★キャビン、森、虫、寝袋、炊事…	・みんなで考え、形づくっていく発想力・協力性 ・楽しみながら工夫する力 ・協同する喜び ・五感を用いて活動する力
7月21・22日	・1泊2日のキャンプ (函館オートキャンプ場にて)	・発見、直接体験からの豊かな感性 ・キャンプを通しての充実感と自立心
本時	・キャンプの思い出の実現化(造形) ・遊びの共有化(キャンプごっこ)	・実体験からイメージし表現する創造性 ・共同製作より具現化する力

### 4 本時案

- ・目標 キャンプの思い出のイメージを共有しながら共同製作を楽しむ。

●幼児の活動	○教師の働きかけ	■環境設定
●キャンプの振り返り	○キャンプの楽しかった思い出を話し合い、子ども達のイメージを共有化させる。	■写真などで視覚に訴える。
●思い出をグループでの話し合い	○子どもの思いや言葉を大切に受けとめ、互いに刺激しあえるような話し合いをする。	■素材に適した用具の準備
●グループで共同製作	○それぞれのイメージを共有できるよう橋渡しをする。	■雰囲気盛り上げるためのBGM
*セロファン・画用紙などを使ったプラネタリウム作り	○イメージしたものを表現できるようヒントを与えたり、アドバイスしたりする。	■それぞれが活動できる場の確保
●作ったもので友だちと一緒に遊ぶ	○新たな発見や驚きを味わわせ、素材を活かした遊びが十分に楽しめるよう配慮する。	

## 【分科会 小学校：かたちづくりするとき】

	【公開授業】 函館市立昭和小学校 1年		
	「ともだち いっぱい」		指導者 堂前 智子
	かたちづくりするとき	ひびきあうとき	つながるとき
	◎	○	○

## 1 題材における感性と知性の出会い

- ・この題材では様々な紙を折ったり、切ったり、丸めたりすることで、生み出される形から、感性を刺激することを意識させたい。
- ・つくる手順やはさみやカッターなどの道具の使い方を示すことで、自分のイメージしたことをさせるように支援したい。
- ・友だちのつくったものに触れることによって、意欲を高めるとともに、みんなの作品を合わせる楽しさを味わわせたい。

- 2 題材目標 (1) 紙で作りだされる形からテーマに沿ったイメージを膨らませ、表現することを楽しませる。
- (2) 友だちの作品にも興味・関心をもたせ、お互いの作品を鑑賞させる。

## 3 指導計画 (総時数4時間)

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1・2	・集めた材料から、つくりたいものを思い付き、発想を広げながら表現する。	・素材から発想・構想する力 ・形づくりのための道具を選ぶ力
3(4時) 4	・自分なりの表現方法に気づき、切ったり、折ったり、貼ったりしながらつくりたいものを形づくり。 ・友だちと作品を持ち寄り、合わせていく。	・材料や切り方などを工夫して取り扱う創造性 ・作品のよさを見つける力・話す力

## 4 本時案 (3/4)

- ・目 標 (1) 素材の色と形に着目して、つくりたいものをつくることができる。
- (2) 友だちの作品のよさに気づくことができる。

学 習 活 動	○教師の働きかけ ◎共通事項 ■言語活動	学習構築のポイント
●前時の確認 ●用具を確認 ●作品の仕上げ ●発表を聞く、話す ●後始末	○前時の内容を確認させる。 ○使用する用具を確認させる。 ○活動内容を確認させ活動させる。 ◎つくりたいもののイメージをもたせる。 ・道具の取り扱いに留意させる。 ・色や形のもつイメージをいかせるようアドバイスする。 ■友だちの作品を見て気づいたことを発表させる。	機 ・紙の色と、切る、折る、丸める、貼るなどして、色々な形をつくることの楽しさを十分味わわせる。 取り組む中で、気づいたことを取り上げながら、作品づくりに結び付ける。 言 ・交流した時のつぶやきなど取り上げながら、思い出させる。



【公開授業】 函館市立中の沢小学校 4年

## 「光でうっし出す世界より」

指導者 水島 賢久

かたちづくりとき

ひびきあうとき

つながるとき

○

◎

## 1 題材における感性と知性の出会い

- ・子供たちにとって新鮮な光り方（ろうそくの光のようなまたたき）をする照明を使用することで感性を刺激し、自分なりのイメージをしっかりとって制作に取り組んでいけるようにしたい。
- ・鑑賞や話し合いを通し、自他の感じ方を比較したり、友だちのデザインされた作品の意図を想像したりする事で、知性や感性に働きかけていきたい。

## 2 題材の目標

- (1) 共通のテーマから自分のイメージを意図をもって模様や形状に表現させる。
- (2) 作品を観察し、作者の意図やテーマを想像しながら、話し合いを通してよさや工夫、面白さを感じ取らせる。


## 3 指導計画（総時数5時間）

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1	・導入、さまざまな照明器具の鑑賞	・身近なものの鑑賞からよさや面白さを感じ取る力
2・3・4	・イメージマップづくり ・各自のテーマの設定 ・シェードづくり	・共通のテーマから発想し、構想する力 ・自分のイメージに合わせて模様や形状をデザインする力
5 本時	・グループ毎に友だちの作品を鑑賞し、テーマについて話し合う	・友だちの作品を鑑賞し、作者の意図を想像しながら、よさや面白さを見つけたり話し合ったりする力

## 4 本時案（5/5）

- ・目標 (1) 作品を鑑賞し、作者の意図やテーマを読み取ろうとする。
- (2) 互いの考えを交流し、作品のテーマについて話し合うことができる。

学習活動	○教師の働きかけ ◎共通事項 ■言語活動	学習構築のポイント
●前時の確認	○前時までの内容を確認させる。	場 鑑賞ブースを設置する。  言 模様や色、組み合わせ等に着目させる。 機 全員が作品を鑑賞しながら発表を開けるようにする。
●活動にかかわってのルールや注意事項の確認	○グループで鑑賞する作品の選び方や鑑賞ブースの使い方、ワークシートの使い方等を確認させる。	
●グループ毎の鑑賞や話し合い	○本時の目的を確認し、活動させる。 ■話し合いの様子を見ながらアドバイスする。	
●グループ毎に話し合った内容の発表	◎シェードの形状や模様等をもとに、他の作品のイメージを感じ取らせる。	
●全ての作品を点灯し、全員で鑑賞	■グループ毎に話し合った内容を発表させ、作品をどのように鑑賞したかを共有させる。	
●後始末	○協力して後始末をさせる。	

	【公開授業】 函館市立高丘小学校 1年		
	「わくわく こうせつえん」		指導者 中谷 文武
	かたちづくりするとき	ひびきあうとき	つながるとき ◎

## 1 題材における感性と知性の出会い

- ・この題材では、児童の身近な生活環境にある香雪園での体験をもとに造形遊びをする。広大な景色や葉っぱ、枝などの自然物にふれながら感性を刺激することを重視したい。
- ・集めた材料を使ってできるものや道具の使い方を示すことで、知性を働かせた活動ができるようにしたい。
- ・香雪園を思い浮かべられるような活動の場を設定することで、感性・知性を刺激したい。

- 2 題材の目標
- (1) 香雪園の自然を体験し、感じたことや思いついたことを表現しようとする意欲を持たせる。
  - (2) 集めた自然物や身近な材料を使って形をつくったり、ならべたりしながら造形活動をさせる。
  - (3) できたものを見て話し合うことで、活動をふり返らせる。


## 3 指導計画（総時数4時間）

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1	・香雪園に行き、自然に触れて遊び、材料を集める。 ・テーマの設定と道具の選択	・五感を使って活動する力
2	・集めた自然物を使って何かをつくってみる。	・素材から発想・構想する力 ・材料や道具を工夫して取り扱う創造性
3・4 本時	・前時までの学習をもとにして新たな発想をふくらませ、造形遊びをする。 ・活動をふりかえり、話し合う。	・活動の目的、場所から発想・構想する力 ・活動のよさを見つける力・話し合う力

## 4 本時案（3/4）

- ・目標 (1) 香雪園で感じたことをふくらませ、思いついたことを楽しく表そうとする。  
(2) 集めた材料を使って形をつくったり、ならべたりしながら遊ぶことができる。

学習活動	○教師の働きかけ ◎共通事項 ■言語活動	学習構築のポイント
●前時の確認	○前時の内容を確認させる。	場 香雪園に見立てた色画用紙を敷き詰めた床面での学習活動
●活動内容の確認と意欲づけ	○学習内容を提示する。 ○活動の仕方や材料、道具の使い方を確認する。	
●集めた材料を使い造形遊び	◎思いをふくらませて、活動させる。 ・道具の取り扱いに留意させる。 ・様子を見ながら必要に応じてアドバイスをする。	機 いろいろな材料を試しながら、ものをつくったり、遊ばせたりさせる。
●評価	■活動内容を発表させ、活動の様子を共有させる。	言 活動内容を聞く、話す。
●後始末	○協力して後始末を行わせる。	

	【公開授業】 函館市立の場中学校 1年		
	「100色色相環に挑戦！！」		指導者 佐々木 壮一
かたちづくるとき	ひびきあうとき	つながるとき	
◎	○		

### 1 題材における感性と知性の出会い

中学校一年生で習得する色彩の性質についての学習に、小学校からの造形遊びの要素を取り入れた題材となっている。色彩学習の平面的要素にペットボトルの色相環を並べるといった立体的要素が加わることで、より実体験や成就感が増すはずである。

ペットボトルによる色づくり体験の中では、色彩のグラデーションについてグループの中で話し合いながら、色相環を完成させていくという共感的喜びもある。体験を通じた学習によって、より色彩への理解と興味を深めることを期待して題材を設定した。

- 2 題材の目標 (1) 色相環をつくる実体験を通して、色の種類の幅広さと美しさを感じ取らせる。  
(2) 共同作業を通して、創作の喜びを味わわせ色彩学習への興味を深める。

### 3 指導計画 (総時数3時間)


時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1	色彩について 色についての基礎的学習 色の数、無彩色、有彩色、明度、三原色など	・色彩の基礎的性質の習得 ・色彩のイメージ
2	色相環について(12色相環の学習)	・色彩の基礎的性質の習得
3 本時	100色色相環作りに挑戦！！ ・色彩学習のまとめ。前時までの学習を生かして色のサンプルづくりと装飾作品づくりをかねて、100色の色相環作りに挑戦する。	・身につけた能力や感性、造形経験などを生かし心豊かな生活を想像する ・色から感じとるイメージ

### 4 本時案(3/3)

- ・目標 (1) 混色の仕方、色の濃さを考えて色づくりをすることができる。  
(2) つくった色を、美しい色相環になるように話し合いながら並べようとする。

学習活動	○教師の働きかけ ◎共通指導事項 ■言語活動	学習構築のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前時の学習を確認</li> <li>● 活動場所と用具を確認</li> <li>● グループごとに活動           <ul style="list-style-type: none"> <li>・混色の仕方や分量について考えながら作業する</li> </ul> </li> <li>● グループごとに後始末</li> <li>● 作品を展示           <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに話し合いながら、作品を展示する</li> </ul> </li> <li>● 評価           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本日の活動について評価する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の内容を確認させる。</li> <li>○グループごとの活動場所を指示し、使用する用具を確認させる。</li> <li>○テーマを確認させ活動させる。</li> <li>◎テーマのイメージをもたせる。</li> <li>・グループの様子を見ながら必要に応じてアドバイスを</li> <li>■ グループごとにペットボトルを並べさせ、色彩から得られる作品のイメージを話し合わせる。</li> <li>・全体を把握しながら、色相環になるように指示。</li> <li>○ワークシートに記入させる。</li> </ul>	<p>場 機</p> <p>グループ学習 造形遊び的要素を入れた教材の工夫</p> <p>言</p> <p>色彩のイメージの共有化 ※グラデーションに並べたボトルを美術室の机を中央に寄せ並べさせる。</p>



	【公開授業】 函館市立旭岡中学校 3年		
	「心を動かす形をつくろう」		指導者 九千房 政光
	かたちづくるとき	ひびきあうとき	つながるとき
		◎	

### 1 題材における感性と知性の出会い

- ・この題材では、石膏を使って抽象彫刻を制作する。石膏の特性を理解させ、石膏による造形の可能性と石膏特有のおもしろさを、五感を通して体験させたい。
- ・自分の心の内をテーマとし、抽象形として造形することを重視し、感性と知性を働かせていきたい。また、お互いの作品を鑑賞し合うことで、イメージや表現における感性や知性を刺激しあう機会としたい。

### 2 題材の目標

- (1)素材の特性にふれさせ、形の面白さを追求しようとする態度を育てる。
- (2)自分の心のうちを抽象形として発想させる。
- (3)構想にもとづき、作品を丁寧に仕上げていく創造的スキルを身につけさせる。
- (4)自他の作品の鑑賞から、よさや美しさ、作り手の意図を感じ取らせ、共有させる。


### 3 指導計画 (総時数12時間)

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1	・素材について	・素材の特性や取り扱い方を理解する力
2	・彫刻について(抽象・具象とは)	・彫刻のよさや美しさを見つけ出す力
3～5	・感動した経験をテーマに、抽象形として発想・構想する。(アイデアスケッチ)	・テーマをもとに形をイメージする力
6～11	・石膏流し込みによる制作 割り出し・仕上げ	・自分のイメージを形づくる力 ・作品をよりよいものに仕上げようとする意欲 ・材料や用具を工夫し、使用する技能
12	・作品交流(本時)	・作品の意図やイメージをとらえる力 ・自他の作品のよさを認めあい、感じ取る力

### 4 本時案(12/12)

- ・目 標 (1)級友の作品を鑑賞し作品の意図を読み取ろうとする。
- (2)自分の作品の意図を相手に伝えることができる。

学 習 活 動	○教師の働きかけ ◎共通事項 ■言語事項	学習構築のポイント
●前時の確認と本時の説明	○鑑賞のポイントを説明する。	時 場 ・作品と向かい合う。 ・グループによる鑑賞
●級友の作品から受けるイメージを付箋紙に記入	○自分の思った素直な意見やイメージを書くようアドバイスを。 ■イメージした側からの交流	
●班で書かれたイメージから連想される作品の題名を予想	○話の進め方を説明し交流させる。	場 機 ・代表して前で互いに作品を交流 ・実物投影機の活用
●いくつかの作品をとりあげ、他者から見たイメージを交流	■作品のイメージと題名の伝達、それを受けての本人の作品の意図と感想。 ■班の中でも同様に交流しあう。	
●班で自分の作品の意図などを交流	○今までの流れをもとに鑑賞させる。	時 ・個別による鑑賞
●他の作品の鑑賞	○ワークシートに今回の作品交流の感想を書かせる。	
●授業を感想として記録		

	【公開授業】 函館市立深堀中学校 3年 「母校の歴史に名を刻め！～50周年モニュメントを考える～」 指導者 櫻井 純		
	かたちづくりするとき	ひびきあうとき	つながるとき
		○	◎

### 1 題材における感性と知性の出会い

- ・開校50周年記念のモニュメントを制作するにあたり、形や設置場所などを生徒自身が考えることにより知的好奇心を刺激し、学校とのつながりをより強くもたせた。
- ・校地内の既存のモニュメントを提示し、言葉から形を、または形からイメージを発想しながら感性と知性を行き来する心の動きをサポートした。
- ・条件に応じた作品を作るために、コンセプトやイメージを明確にしなが話し合いや制作を行うようにさせる。
- ・自分たちの制作意図を生徒や教師に視覚的に伝え合うことで、知性を働かせながら感性を刺激する。

- ### 2 題材の目標
- (1) テーマに基づいた表現の多様性に気づかせ、学校とのつながりをより意識して授業に取り組ませる。
  - (2) 言葉の持つイメージや、形から感じとるテーマなどを豊かに発想・構想させる。
  - (3) 自分のイメージを具体的に形にすることが出来る創造的な技能を習得させる。
  - (4) 自分の制作意図を伝え合うためのコミュニケーション能力を高め、自他の作品の違いや価値を共感させる。

### 3 指導計画

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
11 (2年時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50周年モニュメントを考える。</li> <li>・石膏ブロックを使って、エスキースをつくる。</li> <li>・記念モニュメントにする作品を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマや形を発想する力</li> <li>・道具や素材を生かした創造的な技能</li> <li>・客観的に作品を選ぶ選択力</li> </ul>
6 (3年時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置場所などの環境計画を立てる。</li> <li>・グループで模型などを制作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件に応じた作品を構想していく力</li> <li>・班員で協力し、テーマに応じて表現する力</li> <li>・言語活動などを用いて積極的に制作意図を伝える力</li> </ul>
本時	※それぞれの計画を発表し、交流し合う(言)	

### 4 本時案

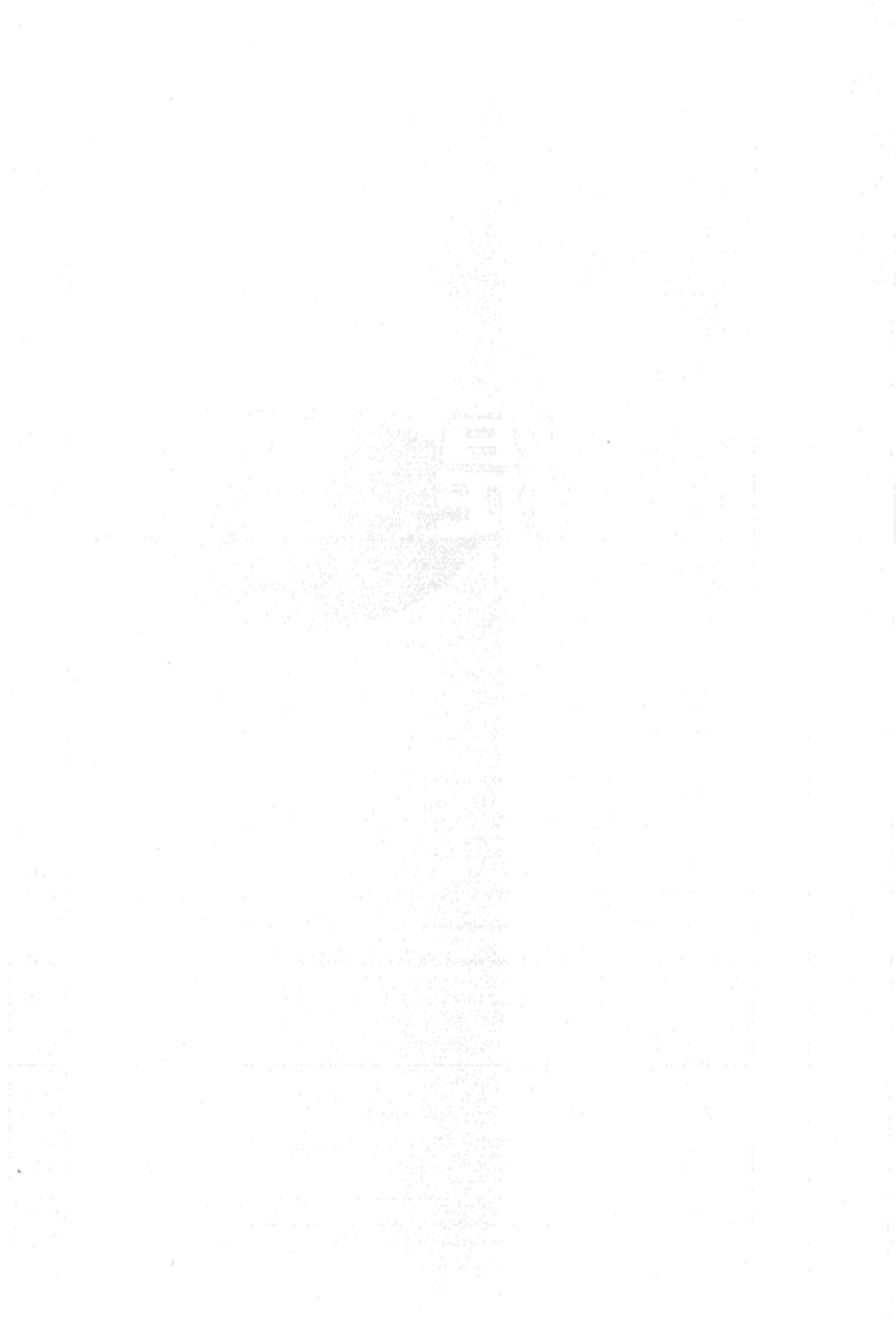
- ・目標 (1) 各グループで自分たちの考えを伝えるために表現方法を工夫し発表することが出来る。
- (2) 他のグループの発表を聞き、自分たちとの考えの違いを感じ、計画意図を認め合うことが出来る。

学習活動	○教師の働きかけ ◎共通事項 ■言語活動	学習構築のポイント
●前時の確認	○前時の内容を確認させる。	場 教室でのグループ活動 PCやデジタルの活用
●本時の活動内容を 確認	○各班の発表に関わる事や、聞く側の活動などを確認させる。	
●班ごとに発表	■各班で模型などを使って発表活動をさせる。	機 相互を認め合い、共感や批評出来る環境づくり ワークシートなどを活用
●相互評価	○モニュメントを設置する場所や条件などを具体的に思い描かせる。	
	○発表を聞いて必要に応じて助言や手助けなどをしていく。	
	○各班の発表を聞いて評価をし、自分たちの発表を振り返らせる。	
●今後の確認	○これからの学習に見通しを持たせる。	

# Memo




提言



## 分科会の提言一覧

分科会名	提言者	提言題材名
1 幼稚園 かたちづくりとき	吉野 貴子 (函館市立戸井幼稚園)	見て、こんなのできた！ ～日々の表現活動から～
2 小学校 かたちづくりとき	山田 光 (函館市立あさひ小学校)	カットプリント大作戦
	松田 恭子 (道教育大学附属函館小学校)	ハロー！ゆかいな仲間たち
3 小学校 ひびきあうとき	小笠原 博子 (函館市立あさひ小学校)	元町公園から見た旧函館区公会堂
	橋本 英子 (帯広市立広陽小学校)	イメージの箱をつくろう 伝えたいことをぎゅっとしぼって
4 小学校 つながるとき	赤坂 巖男 (函館市立中の沢小学校)	わすれられない日～屏風絵づくり～
	石岡 寿子 (松前町立白神小学校)	みて、みて、おはなし〈想の拡充〉
5 中学校 かたちづくりとき	木村 麻岐 (北斗市立浜分中学校)	浜中新校舎のピクトグラムをつくろう
	中井 一夫 (道教育大学附属旭川中学校)	音を彫る
6 中学校 ひびきあうとき	眞鍋 幸恵 (上土幌町立上土幌中学校)	構想や鑑賞における言語活動 「環境と響き合う造形」
	平井 歩 (札幌市立啓明中学校)	水墨画の鑑賞 雪舟「四季山水図（春）」
7 中学校 つながるとき	冨尾 拓 (道教育大学附属函館中学校)	日本の美 世界の用
	山崎 正明 (千歳市立北斗中学校)	あかり

	【提言】 函館市立戸井幼稚園		
	「見て、こんなのできた！」～日々の表現活動から～ 指導者 吉野 貴子		
	かたちづくりするとき	ひびきあうとき	つながるとき
	○	○	○

### 1 本園における感性と表現のおさえ

幼児期は生活の中で自然や人・ものなどに出会い、心を動かされることで感じる心が育まれる。「不思議だな」「面白い」「きれいだな」などの幼児の心の動きを捉えることで、ありのままに表現しようとする。幼児の素朴な表現から『心の表れ・現れ』を教師が感じ取り、内面に寄り添うことで、幼児の感じる心を豊かにできると考える。

幼児は教師に受け止められることで心が安定し、考えやイメージを自分なりに表現しようとする。更に、表現を共に楽しむ仲間がいることで、自己表現の喜びや楽しさを味わえるようになる。自己表現意欲が高まるように、教師が仲立ちとなり、お互いに影響し合える援助を工夫することが大切であるとする。

幼児自身が主体的に表現したくなるような素材や環境、興味・関心が引き出される援助を工夫することで、様々な表現を楽しめるようになる。教師はその子自身の表現や友達との表現、それぞれの表現しようとする過程をじっくりと見取り大切にすることで、表現が豊かになっていくと考える。

教師が「一人一人の興味・関心にどのように心を配っていくか」「その子なりの表現を見つけ、どのように認めていくか」「幼児と教師、子ども同士のコミュニケーションをどのようにつなげていくか」という課題意識をもちながら、実践を進めていきたい。一人一人が感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ姿を目指して教師の援助を探りたいと考える。

### 2 豊かな表現活動へ導く視点

- ・やってみたくなるような環境（興味・意欲の喚起）
- ・やりたい思いの実現
- ・じっくりと遊び込める場や時間の保障
- ・思いに気付かせる機会を意図的に創り出す援助
- ・互いの遊びに気付かせることでイメージを共有化（学級全体・個々）
- ・遊びの継続性（明日の生活への期待）
- ・自然を活かした遊びの工夫（五感を使って）



### 3 実践について

子どもの発想やイメージを教師と実現し、表現を楽しんだ事例


試行錯誤する中で友達と遊びの楽しさを共有し、気づきを伝え合って遊んだ事例

友達と考えを出し合って遊びを創り上げていった事例

### 4 今後の課題とまとめ

- ・教師は、表現されたものだけに目をとどめず、幼児の言葉にならない感覚、感情、内面の変化を感じ取り、それに応じた援助に心掛けることが大切であると再認識することができた。
- ・日々の学級経営で、子どもの関係性を把握し子ども同士の気づきや表現をつなげる援助を丁寧に行い、より意欲的な表現活動を促していくことが課題となる。



	【提言】 函館市立あさひ小学校 4年		
	「カットプリント大作戦」		指導者 山田 光
	かたちづくりするとき	ひびきあうとき	つながるとき
	◎		

### 1 題材における感性と知性の出会い

ゴム判をランダムに切って思った形に並べて組み合わせ、見立て遊びをし、できた形から思いついたものを彫り、色の付け方や効果を考えた版画作りの楽しさを味わわせ、感性と知性を刺激したい。そして、作品が完成したら、作品のテーマや意図を考えさせ、友達感性や知性を共有する機会としたい。

従来の生活版画と違い、制作時間も短いので、初めて版画に取り組む子や、版画に興味を失ってしまった子でも楽しく活動できる題材と思われる。


- ### 2 題材の目標
- (1) ゴム判をランダムに切って、積極的に変化のある多様な組み合わせを試みる。
  - (2) 組み合わせた形から、表したいものをイメージさせる。
  - (3) 表したいものがわかるよう、彫りや刷りの効果を工夫させる。
  - (4) お互いの作品を鑑賞しながら、刷り上がった作品について話し合おうとする。

### 3 実践の視点と経過

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴム判に定規でランダムに線を引く</li> <li>・ ゴム判を裁断機で切る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 五感を使って活動する力</li> <li>・ 素材から発想・構想する力</li> </ul>
2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 切れたゴム判を並べて組み合わせ、見立て遊びをする。</li> <li>・ 形が決まったら、裏返してガムテープで止める。</li> <li>・ 彫るところを油性ペンで書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意図やイメージを考え、表す力</li> <li>・ イメージを形で表す。</li> </ul>
4・5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 油性ペンで書いたところを彫刻刀で彫る。</li> <li>・ インクを付けて刷る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主題を版で表す。</li> <li>・ 主題のイメージを色で表す。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お互いの作品を鑑賞し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品のよさや美しさを感じ取ることができる。</li> </ul>

### 4 今後の課題とまとめ

今回の実践では、切ったゴム判を様々な形に並べて見立て遊びをすることによって、子どもたちがみんな楽しく活動することができた。特に写生会など写実的な活動では、なかなか自分の思う通りに描くことができなかつた子でも楽しそうに活動していたのが成果だった。最後に行われた鑑賞会でも、作品のタイトルや生態・説明を発表し合う活動で、子どもたちが大いに盛り上がったのが印象的だった。図画工作が専門でない先生等、誰が実践しても楽しくできる題材にしていきたいと考えている。

	【提言】 北海道教育大学附属函館小学校 4年		
	「ハロー！ゆかいな仲間たち」		指導者 松田 恭子
	かたちづくりするとき ◎	ひびきあうとき ○	つながるとき

### 1 題材における感性と知性の出会い

- ・ボール紙テープなどを使って形をつくり、その上に色や模様を組み合わせで着色することで、世界に一つしかないお面をつくる題材である。導入時に、子どもの感性や知性が刺激され、どのような活動をするのかイメージすることができるように、様々な国のお面の写真や作品例を鑑賞する場面を設けた。
- ・色のつくり方や模様などを例示することで、子どもが知性を働かせ、自分なりのイメージをもって表現活動を進めることができるようにした。

### 2 題材の目標

ボール紙テープで形をつくったり、色や模様の組み合わせを考えて着色したりしながら、お面をつくっていく活動の楽しさや面白さを味わうことができるようにする。

### 3 実践の視点と経過


- ・本研究の「かたちづくりするとき」の学習内容に即して、お面に鼻や耳などをダイナミックにつけたり、色のつくり方や着色の仕方を工夫したりすることができる題材を設定することで、一人一人の子どもが自分の思いや願いを生かして、面白いお面をつくることのできるのではないかと考えた。
- ・ボール紙やホチキス、のりや刷毛、絵の具などの材料や用具は、中学年という発達段階において扱いやすいのではないかと考えた。
- ・指導計画は次の通りである。

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1	『いろいろなお面を鑑賞しよう』 ・写真を見ながら、世界にあるお面と人々とのかかわりなどについて知り、感想を交流する。	・対象からよさや美しさなどを感じ取る力 ・自分の思いや考えを伝える力
2・3	『お面の形をつくろう』 ・ボール紙テープを組み合わせで形（枠組み）をつくる。 ・枠組みの上に、さらに目や鼻、耳などの出っ張りをつける。	・材料の特性から発想し、つくりたい形を構想する力 ・材料を組み合わせながら、自分がつくりたいお面に対するイメージをもつ力
4～6	『お面の上に紙をはろう』 ・お面の枠組みの上に、のりをつけながら新聞紙、和紙の順に隙間なくはりつける。	・材料や用具の特性を生かして取り扱う力
7～9	『お面に色や模様をつけよう』 ・自分のお面のイメージに合う色や模様を考えながら着色する。 ・着色が完成したら、全体にニスを塗る。	・色や模様などの組み合わせ方を工夫する発想力と構想力
10	『みんなのお面を鑑賞しよう』 ・自分の表現活動を振り返ったり友達のお面を見たりすることで、互いの表現の楽しさや面白さを感じ取る。	・互いのお面の楽しさや面白さなどを感じ取る力と伝える力 ・友だちの活動のよさを自分の表現活動に生かそうと考える力

### 4 今後の課題とまとめ

子ども自身がイメージしている形や色にならない場面があったが、曲がった形や偶然できた色を生かしながら、さらに発想をふくらませて表現活動を楽しむ様子が見られた。

色のつくり方を視覚的に提示することで、子どもたちは混色の仕方を工夫して表すことができた。つくったお面を使って「何をするのか」など、実生活とのかかわりを考えさせる場面を設けてもよかった。

	【提言】 函館市立あさひ小学校 6年		
	「元町公園から見た旧函館区公会堂」 指導者 小笠原 博子		
	かたちづくりとき ○	ひびきあうとき ◎	つながるとき ○

### 1 題材における感性と知性の出会い

- ・全校写生会における題材「元町公園から見た旧函館区公会堂」の絵に表す活動を通して、既習の知識や技能を活用しながら、新たな発想や構想を生み出し、感性を揺さぶる活動を重視してきた。
- ・活動の節目節目に相互鑑賞の時間を取り入れ、美しさの意味や様々な価値観に気づき、共感し合い、新たな創造性を高めるきっかけをつくっていった。

### 2 題材の目標

- (1) 自分が描きたいという思いを生かし、愛着をもって表現させる。
- (2) 既習の知識や技能を生かしながら、描きたい表現方法を工夫させる。
- (3) 友だちの作品と自分の作品のよさを感じ取り、話し合いを通して、作品への思いや工夫を見い出させる。
- (4) 新たな発想や構想に気づきながら追求する。

### 3 実践の視点と経過

- ・本研究の「ひびきあうとき」に関わった場や機会の設定を重視して授業を構築した。
- ・指導計画は以下の通りである。

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1	・題材との出会い ※既習の作品や他の作品例に触れ、イメージをふくらませる。	・既習事項を生かし方法や内容を工夫し表現する力 ・素材から発想・構想する力 ・表現活動のための道具を選択する力
2~13	・下描き、着色 ・小グループ及び全体での意見交流（相互鑑賞・評価） ※描き方や着色の方法など、共通の観点に基づき、聞いたり、試したりする活動を行う。	・作品のよさを話す力・見つける力 ・みんなで発想したり、表現していく発想力 ・材料や道具を工夫して取り扱う創造性
14	・完成した絵の振り返り ※児童が設定した観点に基づき、制作過程を含めた相互鑑賞を行う。	・作品のよさを認め合い、次につなげていこうとする力 ・様々な発想のよさに気づき、生かそうとする力 ・効果的な道具や材料の活用に気付く力

### 4 今後の課題とまとめ

今回の実践では、既習の知識や技能等を生かし、友だちや教師との相互鑑賞の場面を、感性や知性が出会い、心うるおす造形活動とおさえている。

4年間、指導にあたってきた児童は、中学年の時には、形や色、組み合わせ、面と面の重なりから生まれる前後の感じなどをとらえるとともに、様々な手掛かりを基にイメージをもたせるように活動の節目節目に意見交流場面を設定してきた。高学年になってからは、これに加えて外観から立体の構造や奥行き、そして空間を把握するなど、具体的な特徴に即してイメージをもつように指導してきた。

特に、児童自身が観点を考え、交流する姿が見られるようになった。

今後は、心うるおす造形活動をつくり出すために、効果的な言語活動を取り入れていくなど、様々な題材を通して、検証を図っていきたい。



【提言】 帯広市立広陽小学校 3年・4年 「イメージの箱をつくろう（3年）」「伝えたいことをぎゅっとしぼって（4年）」 ～二つの題材をつなぐ展示・鑑賞活動～ 指導者 橋本 英子		
かたちづくるとき	ひびきあうとき	つながるとき
		◎

### 1 題材における感性と知性の出会い

- (1) 「ふだんの授業で（時）」「いつもの教室で（場）」「みんなで一緒に（機会）」という事の大切さを考えます。
- (2) 「みんなで一緒に」展示活動に取り組む中で、自然な雰囲気から生まれる作品の感想（感性）よりよりよい見せ方（知性）、創意工夫の発見（知性と感性のひびきあい）が次の表現にどう生かされたかをまとめていきます。

### 2 題材の目標（展示・鑑賞活動に関わって）

- (1) 「イメージの箱を作ろう（ボックスアート）」（3年）  
（感性）空間を意識することを目的にした題材を鑑賞することで、お互いの空間表現のとらえ方を学びあう。  
（知性）イメージを形にする材料の使い方や、隣り合う色を意識した彩りの楽しさ、美しさを学びあう。
- (2) 「伝えたいことをぎゅっとしぼって（ボックスアート）」（4年）  
①第3学年の表現～展示～鑑賞活動を通して得た感性、知性を作品づくりに生かす。  
②イメージの焦点化、イメージと材料のつながりを展示・鑑賞活動を通じて確かめ合う。

### 3 実践の視点と経過（展示鑑賞活動に関わって）

題材	学習活動・内容	育みたい資質や能力
イメージの箱を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボックス内に自分のイメージした世界を作ろう。</li> <li>・イメージを「言葉」で表す。</li> <li>・それを表現する材料を選び、制作する。</li> <li>・学年で一同に積み重ねて飾る。</li> <li>・飾った物を見て、思い思いの感想を語り合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを具現化するために最も効果的な材料、技法を選ぶことができた。</li> <li>・作品展示を工夫しようとする姿勢が育った。</li> <li>・友だちの作品から、自分もやってみようという気持ちを持つことができた。</li> </ul>
伝えたいことをぎゅっとしぼって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の時の20分の1くらいの小さなボックスに自分のイメージした世界で一番表現したい物を作ろう。</li> <li>・イメージを「短い言葉」で表す。</li> <li>・それを表現する材料を選び、制作する。</li> <li>・学級の壁に数個ずつ飾る。</li> <li>・飾った物を見て、浮かぶ物語を語り合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の作品の持つストーリー性に気づくことができた。</li> <li>・空間（3次元）の持つ特性を最大限生かそうとする姿勢が育った。</li> <li>・作品をとおし、友だちの良いところに気づくことができた。</li> </ul>

### 4 今後の課題とまとめ

#### (1) スタートは展覧会鑑賞～研修は役に立ちました。


今回のボックスアートは、一昨年度、部会研修で鑑賞した帯広美術館の展覧会からインスピレーションを得たものです。すぐれた作品から学ぶ機会は重要です。

#### (2) 鑑賞活動～みんなどんなことで悩んでいる？～帯広市内小学校教諭へのアンケートから

実は自然な雰囲気に取り組んでいることも、いざ「鑑賞活動」となると「むずかしさ」を感じる事もあるようです。帯広の現状と課題をアンケートからまとめます。

#### (3) 表現と鑑賞をつなぐ展示活動の重要性～自然な雰囲気が生む豊かで素直な言語活動

言葉は気持ちを表すものです。その子どもの心の中にある気持ちを、素直な形で引き出すために、展示活動は実に効果的な取り組みと考えます。何気なく出てくる一言が、次の何かを生み出していく。豊かな言語活動は知性と感性を高め、次の表現へと導く重要な活動です。

	【提言】 函館市立中の沢小学校 4年		
	「わすれられない日」～屏風絵づくり		指導者 赤坂 厳男
	かたちづくりとき ○	ひびきあうとき	つながるとき ◎

### 1 題材における感性と知性の出会い

本研究の「つながるとき」には、コミュニケーションが必要不可欠である。なぜなら、一人ひとりの感性に基づいたイメージを伝え合うことでイメージの交感が実現し、さらに、一人ひとりの知性を駆使することで共通のイメージが形づくられ、それを形や色などで表現するための創造的な技能の獲得と高まりが見られるようになるからである。

そこで、この題材では、子ども同士のコミュニケーションの場を設定し、感性や知性を刺激していくことを試みた。

- ### 2 題材の目標
- (1)イメージを伝え合いながら、友だちと共に作品づくりを楽しませる。
  - (2)学校生活を振り返り、心に深く残っている出来事を思い起こさせる。
  - (3)印象深い思い出の場面を選び、内容がよく表れるように工夫して表現させる。
  - (4)作品を見ながら思いを語り合い、よさを味わわせる。

### 3 実践の視点と経過

- ・「つながるとき」に関わって、共同制作の形態を取り入れながら、グループ内のつながり、グループ同士のつながり、クラス全体とのつながりを重視して授業を構築していった。
- ・指導計画は以下の通りである。


時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1・2	・学校生活を振り返る。	・作品づくりへの関心、意欲、態度
3・4	・四季を色で表現する。	・自分のイメージを色で表す力
5・6	・下絵づくり	・グループで話し合っ表したいことを考えて発想する力 ・形や色、組み合わせなどの感じをとらえて計画を立てる力
7・8	・屏風絵（春・夏・秋・冬）をつくる。	・感じたことや思ったことを、いろいろな表し方のよさなどを感じとる力 ・表したいイメージに合わせて、形や色、組み合わせなどを生かして表す力
9・10	・屏風絵をつなげる。  ・屏風絵を鑑賞する。	・新しい形を発想したり、創造する力 ・材料などの感じの違いや、作品のよさ、おもしろさを感じ取る力

### 4 今後の課題とまとめ

子ども同士のコミュニケーションがはかられ、表したいイメージに合わせて、形や色、組み合わせなどの表現に広がりが見られた。そして、グループごとに仕上げた4枚（四季）の絵が繋がって一つの屏風絵が完成したとき、それはクラス全員の思いが一つにつながったときであり、新たなときめきを感じたときでもあった。

さらに、学級のお別れ会（人とこととのコミュニケーション）の舞台背景に屏風を活用（人とのコミュニケーション）したことで、あらためて友だちとのつながり（人と人のコミュニケーション）を実感することができた。

今回、共同制作をするうえで、1年半共に過ごしてきた中で培われた子ども同士の関係の深まりに頼っていた面が大きかった。日頃から様々な機会をとらえて、コミュニケーション能力の育成を心がけていかなければならないと感じている。

	【提言者】 松前町立白神小学校 1・2年複式		
	「みて、みて、おはなし<想の拡充>」 指導者 石岡 寿子		
	かたちづくるとき	ひびきあうとき	つながるとき
	○		◎

### 1 題材における感性と知性の出会い

- この題材は、物語世界を楽しみ、お話の中からイメージしたことを絵や工作に表す活動で、想の拡充を主題に、絵や立体に表すA表現－(2)の領域である。
- 絵本と自分との出会いをきっかけに、実際に地域の砕石場やそこで働く車の様子を見学する。子どもたちの感覚や活動と作品が一体であるイメージを持たせながら、知性や感性を刺激していきたい。

### 2 題材の目標

- 物語や実物から思いを広げて、絵や立体に表す楽しさを味わう。(関心・意欲・態度)
- 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表す。(発想・構想の能力)
- 想像して表した絵や立体について、感じたことを話したり、聞いたりする。(鑑賞)

### 3 実践の視点と経過

- 本研究の「つながるとき」に関わって、表現活動・読書活動・感動体験・地域素材がつながる場の設定を重視して授業を構築していった。また、子どもたちの「つくる力」にまかせることを重視し、子どもたち自身が「こう描きたい」「こんな場面を考えた」と思えるような学習展開を工夫していきたい。
- 指導計画は以下の通りである。


時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1	○ 学習内容と全体計画を知る。	・素材から発想・構想する力
2	○ 読み聞かせを聞いて、心に残った場面を決め、その理由を発表する。	<言語活動1>・自分の思いをもち、話す力
3～5	○ 地域の砕石場を見学し、ダンプカーの大きさを体感し、働く様子を観察する。また、画用紙の上で手を動かしながら、どのように描くのか考える。	・五感を使って感じとる力 ・自分の思いをもち、形づくる発想力
	○ 表現した絵について、感じたことを話したり、聞いたりし合う。	<言語活動2>・作品のよさに気づく力・話す力
6・7	○ 背景の色を考え、水彩絵の具(3原色)を混ぜ合わせ、色づくりをする。	・色にこだわり、工夫する創造性
	○ 自分の作品を見て、形・色・質感などを比べながら、描き加えたいことを考える。	・全体を見直し、さらに形づくる構想力
8	○ 作品を見て、互いのよさや違いを確かめ合う。	<言語活動3>・作品のよさに気づく力・話す力

### 4 今後の課題とまとめ

今回の実践では、作品が出来上がるまで3回の言語活動を設定した。その度に、子どもたちの心の動きや思いを認め、互いに伝え合い、表現への意欲を高めていきたいと考える。

また、複式学級・少人数指導の中で、豊かな表現活動を展開するためには、多くのものや人やことがらとの関わりを意図的に設定し、魅力ある題材との出会いを工夫していく必要がある。特に、地域素材とのつながりを意識することで、子どもたちは、暮らしの中に美的な価値観を実感できる。明らかな変化が目に見えにくいこのような活動を意図的・計画的に継続していくことで、郷土を愛する心が、さらに培われていくことであろう。

感性と知性との出会いを研究の柱にしたことで、見えてきたことが多くある。ただ作品を形づくるだけでなく、感性や知性に働きかけていくことが、これからのさらなる課題になる。教科(国語・生活科)や道徳・日常生活との関連を意識していきたい。

	【提言】 北斗市立浜分中学校 2年		
	「浜中新校舎のピクトグラムをつくろう」		指導者 木村 麻岐
	かたちづくりするとき	ひびきあうとき	つながるとき
	◎		○

### 1 題材における感性と知性の出会い

この題材は、平成24年度完成予定の校舎改築に関わって、新校舎の教室表示デザインを考えるというものである。普段使用している教室から受けるイメージを形として表現し、既習の知識である色彩の整理、色から受ける感情や色の組み合わせなどを確認しながら、ピクトグラムのイメージを膨らませていくことで感性と知性の出会いを試みた。

教室表示ということで、伝わりやすさなどの機能面も考えながら発想・構想を進め、デザインの精選を行った。作品の鑑賞では、グループの形態を生かし批評する活動も取り入れ、他者の感性・知性・技能との出会いの機会を持った。

- ### 2 題材の目標
- (1) 色と形の組み合わせを楽しませ、主体的に表現する喜びを味わわせる。
  - (2) 教室のイメージを形に表し、人々に伝えるためのよりよいデザインを発想・構想させる。
  - (3) 色に対する感情や色の組み合わせの効果を理解し、創意工夫しながら表現させる。
  - (4) 自他の作品の良さや作者の意図を知るとともに、批評し合うことで深く作品を鑑賞させる。

### 3 実践の視点と経過

・本研究の「かたちづくりするとき」に関わり、形や色、イメージをもとに発想させることを重視して授業を構築していった。自分たちが普段使っている教室のイメージや印象的なもののデザインを基に、わかりやすく相手に伝えるためのデザインにつくり上げていく方法をとっている。新校舎の外観イメージが完成し、自分たちは使うことはできないが、後輩たちが使う新校舎のためによりよいものを残していこうということが、制作への意欲につながった。個人での制作、グループでの鑑賞とし、制作と鑑賞により学習形態を変えて学習に取り組んだ。


・指導計画は以下の通りである。

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1	・ピクトグラムについて知る	・対象のイメージをとらえる力
2	・イメージを膨らませ、アイディアスケッチ	・伝える、使うなどの目的や機能を考えたデザインを発想・構想する力
3	デザインの精選 ・色彩の整理、色の組み合わせ、感情について	・単純化や強調など創造的な構成を工夫する力
4	・色紙によるピクトグラムの制作	・形や色彩などの効果を生かして、わかりやすさや美しさを考え、表現の構想を練る力
5	・新しいデザインや同じデザインの色違いも制作する	
6	・個人の振り返りおよびグループでの交流、批評	・作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合う力

### 4 今後の課題とまとめ

今回の実践では、普段の生活の中で目にする多くのピクトグラムを見せることから授業をはじめた。ピクトグラムの機能や形、色の工夫などのデザインについて知らせるとともに、新校舎の教室表示という身近な題材を扱うことで意欲を高めた。また、色紙という扱いやすい素材での制作という点も意欲的な活動につながったと思われる。制作したデザインの配色を実際の色紙を見ながら選択することで、イメージを膨らませながら制作に取り組めたようである。鑑賞では、お互いの作品の交流とともに、グループの中で作品に対する批評をする活動も取り入れた。鑑賞については、自分の考えを述べ批評し合うことができ、他者の感じ方やよりよいものを目指すことに気が付いたことは一定の成果だと感じる。今後の課題としては、魅力ある題材の工夫とより機能的で美しいデザインを制作していくための制作過程の工夫があげられる。また、鑑賞では、批評後に制作を行いよりよい作品に修正することや、プレゼンテーションをし合うなどの授業形態の工夫も課題である。



	【提言】 北海道教育大学附属旭川中学校		
	「音を彫る」		指導者 中井 一夫
	かたちづくりするとき ◎	ひびきあうとき	つながるとき

### 1 題材における感性と知性の出会い

- ・本題材では、最初の段階で旭川彫刻美術館と連携し、彫刻作品を鑑賞した。本物の作品にじかに触れながら感性を刺激する機会とした。
- ・主題として使用した3つの音はいずれも形のない「水、風、火」の音で、知性を働かせ、過去の記憶や感覚を総動員しながらイメージをおもい描いた。

- ### 2 題材の目標
- (1) 抽象表現に対して興味を持ち、自分の感覚や想像力を十分に働かせて意欲的に表現しようとする。
  - (2) 音のイメージを立体に表すまでの制作手順を理解し、見通しを持って計画的に構想・制作しようとする。
  - (3) 作品制作を通して自己のイメージをふくらませるとともに、個性を生かした表現技法を発見、工夫しようとする。
  - (4) 自他の作品を鑑賞する中で互いのよさを認め合い、ともに成就感を味わい、意欲の拡充を図る。

### 3 実践の視点と経過

- ・本題材では、観念的な形から自由な発想の形へ発展させることによって、より幅広いものの見方や表現力を養うことを主眼とした。
- ・指導計画は以下の通りである。

時数	学習活動・内容	備考
2	○彫刻美術館鑑賞 ・本物の作品にじかに触れる ・学芸員から抽象彫刻の解説	・彫刻美術館のDVD (事前学習) ・美術館鑑賞カード
2	○アイディアスケッチ ・音から言葉やイメージを想起する ・単純化、強調などによりイメージを絞り込む ・平面から立体へ構想をふくらませる	・効果音 ①風の音 ②水の音 ③火の音
5	○塑造 ・全体の形をイメージしながら塑造で大まかな形をつくる ○彫造 ・小刀や彫刻刀などを使って細部の削りだし ・木工ヤスリやサンドペーパーなどを用いて表面を磨く	・彫刻粘土 ・心材 ・工具の使い方 安全指導
1	○作品鑑賞	・相互評価・自己評価

### 4 今後の課題とまとめ

本題材では旭川彫刻美術館と連携し、彫刻作品を鑑賞する機会を設けた。実物の作品を鑑賞することは、図版やビデオとは比べものにならないほど刺激を受ける。今後も、美術館をはじめ地域人材の活用にも積極的に取り組んでいきたい。

また、今回の実践では「彫刻粘土」を用いた。これまでも軟石やパラフィン、石けんなど様々な素材で制作してみたが、問題は彫る時間と失敗した後の修復の難しさにある。「彫刻粘土」はまず塑造で大まかな形を作り、乾燥させた後に細部を彫造で仕上げることができ、塑造と彫造を両方体験できるメリットもある。



【提言】 上土幌町立上土幌中学校 3年

構想や鑑賞における言語活動「環境と響き合う造形」指導者 眞鍋 幸恵

かたちづくりとき

ひびきあうとき

つながるとき

◎

### 1 題材における感性と知性の出会い

平成20年の学習指導要領の改訂により、美術科においても「言語活動の充実」が求められている。言語活動で知性を働かす場面としては、作品の分析や批評をする活動やアイデアやイメージを説明することが挙げられる。また、感性の部分としては、他者と意見や考えを交流することで、さらなる発見や感動を味わうことができる点である。知性と感性が働き合うことで、個と全体のつながりが活性化し、より深い鑑賞や多様なアイデアを生み出せると考えられる。

だが、言語活動の課題としては、人前で話したり、書くことが苦手な生徒は、主体的に参加しにくい面があった。今回の実践では、全員参加による話し合いを工夫し、制作の過程やまとめの鑑賞において、相互交流を意識した言語活動を行い、表現と鑑賞の関連性を踏まえた授業を構築した。

**2 題材の目標** (1) グループによる話し合いを通じて、自分のアイデアを広げ、作品制作に生かす。

(2) 作品の色や形のよさについて語り合い、お互いの作品について批評し合う。

### 3 実践の視点と経過


- ・本研究の「ひびきあうとき」の視点に立って、グループにおける話し合いの工夫や「相互の感じ方の比較や受容・批評」を意識し、アイデアを練り合う場面や鑑賞活動を組み立てた。
- ・以下の指導計画は、「環境と響き合う造形」(3年)の例である。

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
1	「パブリックアート」の鑑賞 (スライド)	・環境と造形のつながりへの関心
1	「パブリックアートのアイデア」を考える。 *グループによる話し合い(4人1組)	・発言したり、ともに練り合う力 ・作りたい作品を構想する力
2	デザイン画の制作 (ワークシート)	・アイデアからデザインを考える力
5	粘土による制作	・配色や形の美しさを立体で表現する力
1	作品の相互鑑賞 *グループによる話し合い	・作品の色や形の効果を批評し合う力

### 4 今後の課題とまとめ

今回の実践では、「私たちの町のパブリックアート」をテーマに、グループのメンバーを替えながら、3回の話し合いを行った。生徒はイラストやメモを取りながら話し合いを行い、話し合った内容を他のグループでも共有することができた。生徒の感想では、意見交流の楽しさを感じ、ともによりよいものを作ろうとする意欲が見られた。また、共通事項の「色、形、イメージ」に着眼させることで、「町の景観にあった自然な色合い」、「ベンチや時計など機能性のある作品」、「人々の交流が図れるあたたかみのある作品」などの意見が出された。ただ自分の作りたいものを考えるのではなく、町の特徴や課題について話し合い、作品の公共性や造形と環境の関わりも考えながら、アイデアを練ることができた。

そして、鑑賞では、造形に関する言葉は作品を分析する視点として扱い、見方の固定化や用語解説で終わらない配慮をしたい。そのためにも、表現と鑑賞の関連性を踏まえた題材設定が必要であると考える。

	【提言】 札幌市立啓明中学校		
	「水墨画の鑑賞 雪舟「四季山水図（春）」		指導者 平井 歩
	かたちづくるとき	ひびきあうとき	つながるとき
	◎		

### 1 題材おける感性と知性の出会い

本校の美術科では本題材だけでなく、A表現とB鑑賞の授業を通して個の気づきや感動を生徒の活動を通して共有するために、感性と知性を出会わせ、学び合い高め合う学習活動を行っている。そのために以下のような場や機会を設けている。

- ・表現活動時にもグループ形態で授業を行っている。(場の設定)
- ・自分たちの作品の鑑賞でも、グループ交流や学級交流を中心に進める授業を取り入れている。(機会)

### 2 題材の目標 (1) 関心・意欲・態度

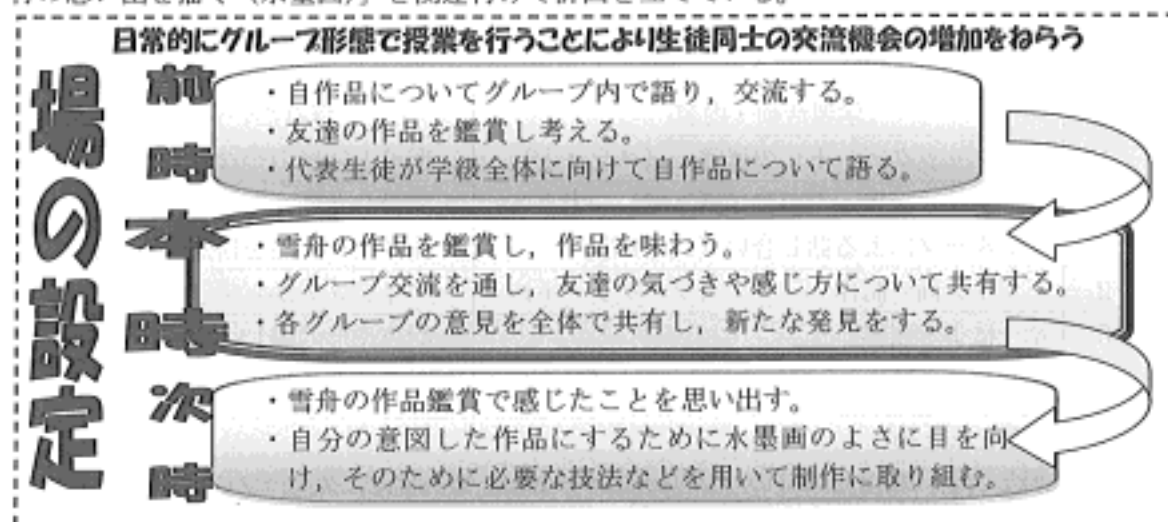
- ・水墨画に関心をもち、作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取ろうとする。
- ・グループでの話し合いに積極的に活動に参加しようとする。

#### (2) 鑑賞の能力

- ・墨の濃淡による表現の違いを理解する。
- ・水墨画特有の形の美しさを感じ取る。
- ・墨の濃淡と筆使いの違いから生まれる作品の雰囲気から作者の心情や意図を感じ取る。

### 3 実践の視点と経過

- ・本題材は1時間題材としているが、前時1時間の「生徒作品の観賞会」と次時8時間の「修学旅行の思い出を描く(水墨画)」と関連付けて計画を立てている。




### 4 今後の課題のまとめ

1週間に1回しかない美術科の授業だけで、生徒同士の気づきや考えなどを積極的に交流し、「ひびきあう」ような学習活動はなかなか身につけてはいかない。このような学習活動に大切なことは日常的な積み重ねをしていくことだと考える。したがって、学校生活の様々な場面でグループ交流や学級・学年交流、時には学年間の交流などに積極的に取り組むことが必要だと考える。

本校の校内研究テーマ自体が「豊かな人間関係の中で学びが発展していく」ことを意識したものである。各教科でグループ形態での学習や生徒同士の学び合いを意識した授業実践を行っている。そのため、美術科でも話し合いなどに比較的抵抗なく取り組める生徒が多いと考えられる。

今後は制作途中での中間観賞会を各題材に組み込むなど、3年間の学習で常にこのスタイルを意識した題材設定を行うなどの工夫をしたい。

また、現在この学習スタイルを取り入れて2年目になる。そのため、現2学年の1年後の学習の様子や作品などをもとに、さらに検証を行う必要があると考える。

	【提言】 北海道教育大学附属函館中学校 2年		
	「日本の美 世界の用」		指導者 富尾 拓
	かたちづくりとき	ひびきあうとき	つながるとき
			◎

### 1 題材における感性と知性の出会い

日本独自の紙を漉く技術で制作された和紙には、日本人の持つ繊細で奥深い精神性が感じられる。そして、それは用と美を調和させた工芸分野を発展させてきた。本題材ではこの和紙を取り上げその制作過程や技術さらには用途や日本独自の感性についての学習を進める中で、受け継がれてきた日本の美を感受させることを重視した。そして、そこから我が国の『用』の美を、世界の『用』として表現していくことを模索し、世界の用を今の時代の感性でデザインさせていきたい。


- 2 題材の目標**
- (1) 日本の美術や伝統と文化に関心を持たせ、その技と精神性の高さを味わわせ、興味や関心をさらに深めさせる。 【関心・意欲・態度】
  - (2) 日本の美術や伝統と文化を世界の様々な分野で役立たせるための発想を豊かにふくらませ、構想を練って、まとめさせる。 【発想・構想の能力】
  - (3) 紙の特質を理解させ、生かし方や創意工夫させ、表現方法を模索させながら効果的に制作させる。 【創造的な技能】
  - (4) 日本の美術や伝統と文化が様々な影響を受けながらも独自の特質を生み出してきたことを感じさせる。 【鑑賞の能力】

### 3 実践の視点と経過

日本の美術や伝統と文化に関する学習を重視し、日本人としての繊細な感性と大胆な表現を改めて認識させていく活動の場を設定してきた。その取り組みを《受け継がれるかたち》《広がるかたち》と大きく大別し、段階を踏みながら学習内容が定着していくことを期待した。そこで、「生活に関わる文化」を学習の切り口として教材開発を行い、「伝統的な文化」を感受させ、「あたらしい文化」を創造させる一連の流れを定着させることができるものとする。3年間の経過の中で自国の文化に関心を持たせ、日本人としての自覚と文化を尊重する態度を身につけさせていきたい。

### 4 今後の課題とまとめ

日本の美術や伝統と文化に関する教育の指導内容を思案する中で、生徒の実態を見ると、その多くは、伝統と文化に対して、重く・堅苦しく・難解なものというイメージを持っており、高い壁や抵抗感を感じる生徒もいた。そこで、できるだけ身近な内容の学習からはじめ、よさや美しさ、精神性の高さという魅力を伝えることができるよう心がけた。結果、今回の実践を終え、「日本の美術や伝統に興味や関心を持ち始めた」という事後アンケート結果からもわかるように、生徒の心情にこれまでとは違う変化が現れ始めた。さらに、デザインや配色の中に日本の伝統色を意識した色使いや形を取り入れようとする生徒が増えるなど、日本のよさを感受し、表現に活かそうとする態度が見られ始めている。また、今回の実践では生徒の感性やイメージを豊かに表出させるために、鑑賞の授業の中でイメージの言語化を試みてきた。そこには五感で感じたイメージをいかに表出させるかという工夫が要求された。言語活動の効果的な活用はイメージを形にする際に、他者との共感に大いに役立ち表現に深み増した。今後は3年間の学習で繰り返し、日本の伝統や文化に対する意識を喚起させ、身につけさせるため、各学年の授業総時数を考慮し、授業形態の工夫や、これまである題材を効果的に活用する視点が、さらに必要である。

	【提言】 千歳市立北斗中学校 2年		
	「あかり」		指導者 山崎 正明
	かたちづくりとき	ひびきあうとき	つながるとき
			◎

### 1 題材における知性と感性の出会い

- ・ 光や色、形、材料などのおもしろさを生かす感性と材料の特性を生かす（安全性も条件になる）知性の両面が伸縮しあって、「照明器具」が「あかり」に生まれかわる。
- ・ 自分の生活で使うものをつくるというつながりが、層の意欲を生みだす。
- ・ つくった「あかり」をカメラで撮影し、さらにプレゼンカードをつくる。（生活の中で常に目にする写真、グラフィックデザインとつなぐ学習。）写真撮影は感性を働かせながら、撮影のおもしろさを味わう。プレゼンカードは書籍などのレイアウトから学びながら、人に伝えるという知性を働かせた活動である。

### 2 題材の目標

- (1) 自分の作りだしたものが生活を豊かにする喜びを味わう。
- (2) 光、材料の特性をいかして発想を広げ、実際に使うことを見通して考えを深めていくことができる。
- (3) 色や形などのバランスを考え、身につけてきた技を使いながら制作。
- (4) カメラで作品を撮影し、作品プレゼンカードづくりを通して、自分の作品を鑑賞し、よさを感じとる。

#### 題材の概要

さまざまな材料を使って照明をつくり、作品をデジタルカメラで撮影する。

「あかり」の授業で生まれる作品は3つ。

○ 様々な材料を用いた照明

（台の大きさは20cm 角、25 ワット電球  
→今はLED、台座と部材固定の部分は  
技術科で製作する）

○ 写真（2L版1枚）

○ 作品プレゼンカード

（8切用用紙にL版写真4枚以内）

美術が生活につながると実感することは、  
美術を学ぶ意味を理解することにもなる

### 3 実践の視点と経過

時数	学習活動・内容	育みたい資質や能力
0	「技術科」で照明器具を製作	技術科で設定
1	題材との出会いと見直しおよび発想	・つなげる・感じとる・見通す
1	「あかり」制作のための発想・構想	・広げる・深める（スケッチは軽く扱う）
5	制作（自分の学習計画に沿って） 学校には様々な材料、参考図書を用意しています。あかりのシェードは障子紙を基本にしています。実際に点灯させて、光の効果を確かめる場も用意しています。	・選び、決める・使う・バランスをとる （時間が不足する生徒は昼休みや放課後の一部を活用する）次の時間の撮影のためのロケハン（撮影計画）は授業外でしておく。 *学びを引き出す教室環境の構成
1	撮影（APA「美術の授業にカメラ」の基本プログラムをもとに実施）と鑑賞会	・感じとる・選び、決める （撮影した撮影写真の選択一鑑賞会）
2	作品プレゼンカードづくりとふりかえり	・つなげる・バランス（レイアウト）・使う ・自己理解・他者理解

左に示している「育みたい力」は、石狩造形教育連盟で設定しているもので日頃の授業はこの考え方でやっています。指導要領とも整合しています。  
詳細は<http://artmain.jp/>または「石狩造形教育連盟」で検索を。

### 4 今後の課題とまとめ

(1) つくった立体作品を、被写体とすることで新たな価値が生まれた。カメラの可能性。(2) あかりも写真もプレゼンカードも、実際の生活で見かけるデザインとつながっている。表現も鑑賞も高まる。(3) 時間不足から放課後や休み時間を使うことは課題として残る。作品の小型化で対応か？ **美術教師は減っていく、しかし、次の指導要領改訂前に社会から美術科の存在を評価されなければ...**

# Memo

# 全道造形教育ネットワーク

北海道造形教育連盟ネットワーク部門

## 1. 趣旨

北海道の造形教育に携わる人や各地区の連携を深め強化していくために

- ①各地区が日常的に連絡や交流できるための名簿を年度毎に作成する。
- ②各地区の研究や実践を交流する。
- ③北海道共通実践題材の開発を行う。
- ④北海道造形教育連盟ホームページの内容を充実させる。
- ⑤5年に1度見直される北海道造形教育連盟の研究主題について、各地区の意見を交流する。

以上の内容を推進するために年3回のネットワーク会議を開催する。

- ・春のネットワーク会議  
(春の地区委員総会前に)
- ・夏のネットワーク会議  
(夏の全道大会で)
- ・冬のネットワーク会議  
(北海道教育美術展審査会の中で)

## 2. 組織

全道造形教育ネットワークは、全道18サークルのネットワーク担当者と本部ネットワーク担当者で組織される。

## 3. ホームページ・メーリングリスト

北海道造形教育連盟としての情報発信としてホームページ(HP)を運営する。また、北海道造形教育連盟の会員同士の情報交換の場としてメーリングリスト(ML)による発信も行っている。

HPのアクセス数 …8416アクセス  
MLの参加者 …………… 94名  
(2010.6.12 現在)

MLの参加者は随時受付中

### HP, MLのアドレス

URL <http://hokuzou.kir.jp>  
e-mail [hokuzou.post@kagoya.net](mailto:hokuzou.post@kagoya.net)  
Mailing List  
<http://groups.google.co.jp/group/hokuzou-mail>

## 4. 今年度の重点(活動経過)

「平成5年 旭川大会」により、全道造形教育ネットワークの設立が承認される。毎年、数回のネットワーク会議・HPの運営を行い現在に至る。

### ＜今年度の重点＞

[TEAM HOKKAIDO]を合言葉に

- ネットワーク会議の充実
- OHP, MLを活用した情報発信  
・交流
- 道内の美術館との連携事業・教育  
普及事業への参画

### ①ネットワーク会議を通して

年3回行われているネットワーク会議では各サークルの実践を交流したり、実施してきた作品展・研修会などといった事業の交流を行ったりきた。そこで、昨年度大きな話題になったこととして、各サークルの研究主題と北海道造形教育連盟の主題との関連である。交流の中では「子ども達の声が聞こえてきそうな作品」を生み出すための授業というキーワードが話された。各サークルの研究主題に関する情報がネットワーク会議の中で交流されたことに加え、MLを使って多くの人の声を聞くことで、新研究主題の構想を全道で創り上げていくことができた。

また、ネットワーク会議では「ひと」と「ひと」との結びつきに重点を置き、各地区サークルで行われた実践の報告だけではなく、成果や課題、地域性や学校の実態などといった、率直な意見交換を行っている。そして、互いの現状を交流することで、今後の方法を模索している。

### ②HP, MLによる情報交流

MLのより効率的な活用を行えるように、昨年末にMLのリニューアルを行い今まで以上にみなさんの声が発信しやすくなったと考えている。今後、MLを活用し公開授業の情報や各地区サークルでの事業・作品展などの様子も紹介したいと考えている。



### ③美術館との連携事業

2007年度に北海道立近代美術館で行われた「Born in Hokkaido」に北海道造形教育連盟として共同企画を行ってきたことをきっかけに本連盟と美術館との共同企画が本格的に動き出した。

子供たちが美術館を利用して授業を行ったり、学芸員さんを学校に招待したりと互いに共同で行うことによる教育効果を実感している。この流れは、全道各地で実践され大きな成果となっている。昨年度は、道立旭川美術館や釧路市立美術館で中学校の美術部との共同企画を、また道立函館美術館は小中学生を対象とした事業を実施し、実践を積み重ねている。

今後も、道内にある美術館と連携し教育普及事業に関する業務を行い、学校教育との連携を推進していきたい。

### 5. 2010「函館大会」の役割

夏のネットワーク会議について昨年度の旭川大会で行われた、夏のネットワーク会議で、全道で行われている各地区サークルの活動を紹介する場として、今年度から大会会場で、各地区サークルのブースを掲示していくこととなった。18の地区サークルの活動を一度に紹介できる場、そして、ネットワーク担当者が集い各地区サークルの実態や今後の方向性、他地域との情報交換など、とても大きな意味のある大会となる。

また、北海道教育美術展の奨励賞作品100点も展示し、ご覧頂けるようになっている。

同様に、ネットワーク会議もたくさんの方にご参加いただけるように、オープンスペースを使って会議を行うことにした。お立ち寄りの際には、一言ご意見いただきたいと思っています。



### 6. HPに関して

造形教育に関する情報を誰もが取り出し、ひとりでも多くの子供たちが、造形活動のよさを感じていけるような環境づくりを目指しHP運営している。インターネットでアクセスすると、欲しい情報が蓄積されているようなHPを最終目標に、今後コンテンツ時の充実を図ってきたいと考えている。今年度は、次年度開催される、全国大会に向けて、より見やすく使いやすいHPにリニューアルを行う。各地で行われている情報がつながるHPを目指している。

### 7. 各地区サークル・ネットワーク部名簿

サークル名	担当者名	勤務校
札幌市造形教育連盟	山 薫	札幌市立観音小
石狩造形教育連盟	岩崎愛彦	千歳市立千歳小
空知美術教育研究会	佐藤 祈	三笠市立新院内小
後志教育研究会工芸部部会	嶋影哲弥	小樽市立入船小
上川造形教育連盟	渡辺悟史	東川町立東川小
旭川教育研究会工芸部部会	庄子展弘	旭川市立北星中
留萌地方美術教育研究会	松岡宏規	羽幌町立羽幌小
渡島美術教育研究会	後藤征秀	北斗市立上級中
函館市美術教育研究会	木村紳仁	函館市立鼓亀沢中
釧路造形教育研究会	谷口光伸	江差町立南が丘小
胆振造形教育研究会	大年教子	むかわ町立越川中
室蘭市造形教育研究会	大野達也	室蘭市立水元小
苫小牧市造形研究会	宮下肇彰	苫小牧市立糸井小
帯広市教育研究会工芸部部会	澤田佳子	帯広市立第四中
十勝造形サークル	小泉住一	釧路町立札内中
釧路造形教育研究会	花輪大輔	釧路市立大塚南小
オホーツク造形教育連盟	塩浦重紀	網走市立瀧見小
根室造形教育連盟	小野守史	中標津町立広陵中
北海道造形教育連盟 部長	小林知広	札幌市立豊西小
北海道造形教育連盟 副部長	伊藤聡美	札幌市立豊西小
北海道造形教育連盟 副部長	小野博史	札幌市立中の島小

# 北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的  
本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興を図るをもって目的とする
2. 事業  
本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う
  - ① 研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
  - ② 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
  - ③ 機関紙の刊行
  - ④ 他の造形教育団体との連絡提携
  - ⑤ その他造形教育振興上必要な事項
3. 会員  
正会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員  
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの
4. 組織  
サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する  
本部 本連盟の本部は札幌に置く
5. 構成及び任務
  - ① 役員  
委員長 1名 本連盟を代表する  
副委員長 若干名 委員長を補佐する  
会計監査 2名 会計の監査をする
  - ② 委員  
地区委員 地区1名 地区サークルを代表する  
常任委員 若干名 本連盟の運営に当たる  
顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる
6. 選任  
\*委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する  
\*地区委員は地区サークルで選出する  
\*常任委員は委員長の委嘱による  
\*顧問は委員総会において委嘱する
7. 任期  
役員及び委員の任期は1カ年とする 但し重任を妨げない
8. 会議  
\*総会 必要に応じて開催し、連盟事業につき協議する  
\*委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する  
役員の選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する  
\*常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する
9. 会計  
本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する  
会費 正会員は、1人年額2,000円を納入するものとする  
サークルは、年額10,000円を納入するものとする
10. 事務局  
\*事務局は事務局長在勤の学校に置く  
\*事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する  
\*事務局には必要に応じて各部を設け業務を分担する
11. 年度  
本連盟の事業並びに会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる
12. 規約の改廃  
本規約の改廃は委員総会の議決による

(平成6年4月29日改訂)

(平成9年4月29日改訂)

(平成19年4月28日改訂)

# 全道造形教育研究大会開催地と研究一覧

- 第1回(札幌) 1950  
情操教育の一環として本道図画工作教育の進展を図るため
- 第2回(札幌) 1952  
図画工作教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について
- 第3回(旭川) 1953  
美術教育の指導とは何か
- 第4回(函館) 1954  
図画工作教育実践上の諸問題について
- 第5回(釧路) 1955  
図画工作教育における学習指導上の問題点の解明
- 第6回(札幌) 1956  
造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか
- 第7回(室蘭) 1957  
のぞましい造形教育における具体的諸問題について
- 第8回(小樽) 1958  
図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか
- 第9回(帯広) 1959  
新段階における造形教育のあり方
- 第10回(網走) 1960  
本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう
- 第11回(滝川) 1961  
子供たちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか
- 第12回(名寄) 1962  
子供が生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか
- 第13回(余市) 1963  
子供が生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか
- 第14回(札幌) 1964  
子供の創造能力とは何か
- 第15回(稚内) 1965  
子供の創造能力とは何か
- 第16回(室蘭) 1966  
子供の創造能力とは何か
- 第17回(函館) 1967  
指導の構築を具体化する
- 第18回(苫小牧) 1968  
指導の構築を具体化する
- 第19回(札幌) 1969  
造形能力は、どのような指導によって育てられるか
- 第20回(旭川) 1970  
ゆたかに生きる子供の造形能力をどう育てるか
- 第21回(札幌) 1971  
造形能力は、どのような指導によって育てられるか
- 第22回(帯広) 1972  
未来に生きる子供の造形教育(生活に根ざした造形教育をどう高めるか)
- 第23回(室蘭) 1973  
未来に生きる子供の造形教育(たしかな表現力をどのように育てるか)
- 第24回(美幌) 1974  
未来に生きる子供の造形教育(ひとりひとりの子供の表現力をどう高めるか)
- 第25回(江別) 1975  
未来に生きる子供の造形教育(自ら創り出す力をどう育てるか)
- 第26回(岩見沢) 1976  
未来に生きる子供の造形教育(すべての子供に造形よろこびを)
- 第27回(札幌) 1977  
(第30回全国造形教育研究大会)  
みずみずしい中味でしなやかな子供を育てる造形実践
- 第28回(函館) 1978  
みずみずしい中味でしなやかな子供を育てる造形実践(すべての子供が生き生きととりくむ学習)
- 第29回(旭川) 1979  
生き生きとしたゆとりある子供を育てる図工美術教育のあり方
- 第30回(苫小牧) 1980  
ひろがりと深まりの造形教育を求めて
- 第31回(釧路) 1981  
創りだす心をよびおこす造形教育

- 第32回(宝蘭)1982  
見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを
- 第33回(留萌)1983  
生活とふれあい、創る心のひろがりを求める造形活動
- 第34回(札幌)1984  
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動  
(わきたつ発想・たしかな表現・つくり出す喜び)
- 第35回(函館)1985  
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動  
(心をこめてつくりだす子供を育てる)
- 第36回(旭川)1986  
(第39回全国造形教育研究大会)  
子供の心をゆり動かす造形教育(つくる心のひろがり求めて)
- 第37回(紋別)1987  
子供の心をゆり動かす造形教育(表現の喜びにひたる子供を育てる)
- 第38回(滝川)1988  
子供の心をゆり動かす造形教育(ひたむきに創る心を育てる)
- 第39回(帯広)1989  
子供の個性的表現を授ける造形教育の充実(君は今創造のとりこに)
- 第40回(苫小牧)1990  
広がり、深まり、そして感動を!
- 第41回(札幌)1991  
子供の個性的表現を授ける造形教育(子供のつくる喜びをひらく)
- 第42回(函館)1992  
子供の個性的表現を授ける造形教育の充実(感動、そして創造する喜びを)
- 第43回(旭川)1993  
思いをあたため心はずませ創る喜びを
- 第44回(釧路)1994  
心ときめく、創造の喜びを求めて
- 第45回(千歳)1995  
豊かな心と確かな力をはぐくむ造形活動を
- 第46回(札幌)1996  
自らの心を拓く造形活動の在り方  
～造形=愛感美遊創 in 札幌～
- 第47回(根室)1997  
感動から発し躍動する力を育む造形学習を!

- 第48回(留萌)1998  
楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共感し寄り添う指導
- 第49回(オホーツク)1999  
オホーツク発 思・創・喜・感  
～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～
- 第50回(函館)2000  
20世紀から21世紀へ  
～心の風景(ビジョン)の発信を!～  
豊かな自分づくりを生かす想創活動
- 第51回(札幌)2001  
(第54回全国造形教育研究大会北海道大会 in 札幌)  
心豊かに未来に生きる造形教育
- 第52回(帯広)2002  
豊かな感性をはぐくむ造形教育
- 第53回(滝川)2003  
つくる喜びを実感できる造形教育
- 第54回(旭川)2004  
豊かに感じ おもいをふくらませ あらわす喜びを  
～生の造形教育 身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて～
- 第55回(函館)2005  
めざめる感性(こころ)きらめく個性(かたち)  
～地域空間がいざなう造形活動のひろがり～
- 第56回(札幌)2006  
楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育
- 第57回(釧路)2007  
つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育
- 第58回(北広島)2008  
豊かな心と確かな力をはぐくむ造形教育を!
- 第59回(旭川)2009  
「身体で感じ・心はずませ・創造する」喜びを  
～「いま・ここで」「つなげる」造形教育を求めて～
- 第60回(函館)2010  
創造! ときめき! 実感!  
～感性と知性の出会い 心うるおす造形活動～



# 平成22年度 北海道造形教育連盟名簿

## 役員

役名	氏名	勤務校
会長	菅原 清貴	札幌市立幌西小長
副会長	伝住 修一	江別市立野幌若葉小長
	渡辺 盛二	旭川市立近文第一小長
	中村 吉秀	函館市立亀尾小・中長
	奥田 泰朗	弟子屈町立昭栄小長
	富田 賢司	札幌市立札幌北中長
監査	木村 伸仁	函館市立銭亀沢中
	篠原 寛	札幌市立西小長
事務局長	稲實 順	札幌市立盤溪小長
事務局次長	中居 正光	札幌市立菊水小
	川島 正夫	札幌市立幌南小
	東 尚典	札幌市立平岡中央小
	福島由紀子	札幌市立幌北小
	向井 正樹	札幌市立あいの里東中
	金子 睦	札幌市立中央中
60周年記念 実行委員長	今 裕子	札幌市立福住小長
副委員長	加藤 正幸	札幌市立北郷小長
会計	三井 哲	札幌市立平岡中央小長
会計次長	高向 修子	札幌市藤女子中・高
全道研究部 統括部長	土井 善範	札幌市立鴻城小長
全道事業部 統括部長	田口 和男	札幌市立厚別西小長
庶務部長	箭内 浩之	札幌市立真駒内曙小
庶務 副部長	吉伊 宏子	札幌市立幌西小
	中川 治	札幌市立伏見小
広報部長	松本 和彦	札幌市立登寒小
広報 副部長	大高 雅子	札幌市立柏中
	櫻田 悟	札幌市立平和小
事業活動 部長	八田 博之	札幌市立中央小
事業活動 副部長	池田 武彦	札幌市立本郷小
	濱口 裕子	札幌市立緑丘小
北海道教育 美術展担当	岩崎 重明	札幌市立南月寒小
	中村 麻紀	札幌市立厚別西小
	保科 治恵	札幌市立南の沢小
造形教室 担当	二ツ山かおる	札幌市立上野幌東小
	高松 摩衣	札幌ひまわり幼
事業研修 部長	石川 早苗	札幌市立宮の丘中
事業研修 副部長	加藤 雅子 藪下 栄一	札幌市立屯田西小 札幌市立藤野南小

役名	氏名	勤務校
研究部長	湯浅 大吾	札幌市立伏見小
研究 副部長	森實 祐里	札幌市立星置東小
	水野 一英	札幌市立宮の森中
ネットワーク 部長	小林 知広	札幌市立幌西小
ネットワーク 副部長	伊藤 聡美	札幌市立幌西小
	小野 博史	札幌市立中の島小
	山 薫	札幌市立幌南小
	岩崎 愛彦	千歳市立千歳小
	佐藤 祈	三笠市立新幌内小頭
	嶋影 哲弥	小樽市立入船小
	渡辺 悟史	東川町立東川小
	庄子 展弘	旭川市立北星中
	松岡 宏悦	羽幌町立羽幌小
	後藤 征秀	北斗市立上磯中
	木村 伸仁	函館市立銭亀沢中
	谷口 光伸	江差町立南が丘小頭
	大年 教子	むかわ町立鶴川中
	大野 達也	室蘭市立水元小
	宮下 肇彰	苫小牧市立糸井小
	澤田 佳子	帯広市立第四中
	小泉 佳一	幕別町立札内中
	花輪 大輔	北海道教育大学附属釧路中
	塩浦 亜紀	網走市立潮見小
	小野寺宏二	中標津町立広陵中長

## 事務局

〒064-0945

札幌市中央区盤溪226番地  
札幌市立盤溪小学校長

事務局長 稲實 順

TEL 011-642-3223

FAX 011-642-3287

## 北海道造形教育連盟地区委員

### 札幌市造形教育連盟

会 長	塚野 昭臣	札幌市立稲穂中長
委員・事務局	櫻田 豊	札幌市立星置東小長

### 石狩造形教育連盟

委員 長	伝住 修一	江別市立野幌若葉小長
委員・事務局	池田 元治	江別市立上江別小頭

### 空知美術教育研究会

会 長	白井万寿子	滝川市立西小頭
委員・事務局	舘山 唯郎	滝川市立東小

### 後志教育研究会図工美術部会

委員 長	嶋影 哲弥	小樽市立入船小
------	-------	---------

### 上川造形教育連盟

会 長	菅原 敏光	東川町立東川第三小長
委員・事務局	渡辺 悟史	東川町立東川小

### 旭川教育研究会図工美術部会

部 長	森 洋	旭川市立啓北小
委 員	川原 潤	旭川市立永山中

### 留萌地方美術教育研究会

副 会 長	野島 操	初山別村立豊岬小長
委員・事務局	村元 隆一	増毛町立阿分小頭

### 渡島美術教育研究会

会 長	黒田 雅世	北斗市立茂辺地小長
委員・事務局	後藤 征秀	北斗市立上磯中

### 函館市美術教育研究会

会 長	中村 吉秀	函館市立亀尾小中長
委員・事務局	瀧本 伸幸	函館市立日吉が丘小

### 檜山造形教育研究会

会 長	茶碗谷 稔	江差町立江差北小長
委員・事務局	谷口 光伸	江差町立南が丘小頭

### 胆振造形教育研究会

会 長	佐竹 秀行	白老町立虎杖中長
委員・事務局	大年 教子	むかわ町立鶴川中

### 苫小牧市教育研究会造形教育会

会 長	宮下 肇彰	苫小牧市立糸井小
委員・事務局	松柳亜希子	苫小牧市立拓勇小

### 室蘭市造形教育研究会

委員 長	大野 達也	室蘭市立水元小
------	-------	---------

### 十勝造形サークル

委員 長	石割 章浩	音更町立駒場中頭
委 員	小泉 佳一	幕別町立札内中

### 帯広市教育研究会図工美術部会

顧問	辻 敦郎	帯広市立第五中長
委員・事務局	梅津 美香	帯広市立帯広第二中

### 釧路造形教育研究会

委員 長	奥田 泰朗	弟子屈町立昭栄小長
委 員	杉山 浩彰	釧路市立美原中

### オホーツク造形教育連盟

委員 長	吉田 寛	訓子府町立訓子府小長
委員・事務局	添田 好美	網走市立中央小

### 根室造形教育連盟

委員 長	大井誠一郎	別海町立別海中央小長
委員・事務局	小野寺宏二	中標津町立広陵中長

北海道造形教育連盟顧問

氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区
秋山修世	函館市	庄 栄一	札幌市	宮川誠一	札幌市
阿部賢一	北見市	芝木秀昭	札幌市	宗廣義彦	南幌町
石井 久	函館市	白井園毅	江別市	村瀬千櫻	札幌市
石塚 潔	登別市	須貝 徹	遠軽市	森川昭夫	札幌市
伊藤 恵	札幌市	角力山 旭	札幌市	柳原寿夫	旭川市
伊藤英明	函館市	関 建治	恵庭市	山口長伸	別海町
伊藤善彬	札幌市	高橋瞭治	留萌市	山宮喬也	北見市
内田暢一	札幌市	武田 誠	七飯町	吉田倭雄	札幌市
繪面和子	函館市	多田紘一	札幌市	米谷哲夫	札幌市
奥野郁男	札幌市	種市誠次郎	札幌市	和田 弘	北広島市
織田達史	増毛町	寺嶋文憲	札幌市	若竹隆邦	函館市
鹿嶋 健	札幌市	寺本吉明	芽室町		
金井秀男	札幌市	出村 保	留萌市		
金谷 彊	函館市	土井勝展	江別市		
窪田恵子	札幌市	富田 泰	札幌市		
桑田正博	江別市	早弓弘行	滝川市		
近藤 貢	函館市	宝輪勝巳	釧路市		
齊藤隆博	帯広市	藤井正治	札幌市		
佐藤吉五郎	札幌市	船着昭弘	札幌市		
佐藤正幸	美唄市	松島輝男	札幌市		
佐藤 靖	札幌市	三浦敏勝	函館市		
重山 恵	旭川市	三谷哲司	札幌市		



# 第60回 全道造形教育研究大会函館大会 役員一覧

◇ 大会長 菅原 清貴（北海道造形教育連盟会長）

◇ 大会副委員長

伝住 修一（北海道造形教育連盟副会長）

渡辺 盛二（北海道造形教育連盟副会長）

中村 吉秀（北海道造形教育連盟副会長）

奥田 泰朗（北海道造形教育連盟副会長）

富田 賢司（北海道造形教育連盟副会長）

◇ 大会役員

篠原 寛（北海道造形教育連盟監査）

木村 伸仁（北海道造形教育連盟監査）

稲實 順（北海道造形教育連盟事務局長）

三井 哲（北海道造形教育連盟会計部長）

田口 和男（北海道造形教育連盟全道事業部統括部長）

土井 善範（北海道造形教育連盟全道研究部統括部長）

箭内 浩之（北海道造形教育連盟庶務部長）

八田 博之（北海道造形教育連盟事業活動部長）

石川 早苗（北海道造形教育連盟事業研修部長）

湯浅 大吾（北海道造形教育連盟研究部長）

小林 知広（北海道造形教育連盟ネットワーク部長）

◇ 顧問

乳井 邦衛（函館市美術教育研究会）

田中 俊也（函館市美術教育研究会）

大崎 義弘（函館市美術教育研究会）

高野 政吉（函館市美術教育研究会）

信永 昭三（函館市美術教育研究会）

秋山 修世（函館市美術教育研究会）

八木橋哲朗（函館市美術教育研究会）

菅原 昭一（函館市美術教育研究会）

金谷 颯（函館市美術教育研究会）

福田 隆次（函館市美術教育研究会）

石井 久（函館市美術教育研究会）

伊藤 英明（函館市美術教育研究会）

進士 維昭（函館市美術教育研究会）

安井 孝（函館市美術教育研究会）

繪面 和子（函館市美術教育研究会）

近藤 貢（函館市美術教育研究会）

山谷 礼司（函館市美術教育研究会）

武田 文彦（函館市美術教育研究会）

橋本 紀勝（函館市美術教育研究会）

藤川 潔（函館市美術教育研究会）

野呂 憲一（函館市美術教育研究会）

武田 誠（函館市美術教育研究会）

鈴木 秀明（函館市美術教育研究会）

大島 道夫（函館市美術教育研究会）

辻口 善廣（函館市美術教育研究会）

◇ 実行委員長 中村 吉秀（函館市美術教育研究会会長）

◇ 副実行委員長

黒田 雅世（渡島美術教育研究会会長）

茶碗谷 稔（檜山造形教育研究会会長）

越前屋影子（函館市幼稚園協会会長）

土谷 敬（函館市美術教育研究会副会長）

仲井 靖典（函館市美術教育研究会副会長）

秋元 順一（函館市立昭和小学校校長）

豊田 千春（学校法人太陽学院理事長）

近藤 智子（太陽の子幼稚園園長）

◇ 大会事務局

総務 / 横岸澤英二（本通中）

事務局長 / 瀧本 伸幸（日吉が丘小）

事務局次長 / 木村 伸仁（銭亀沢中） 佐々木善憲（深堀小） 松浦 一秀（昭和小教頭）

三上 泰司（昭和小） 後藤 征秀（北斗市立上磯中）

◇ 研究部

総務／佐々木善憲（深堀小）  
部長／西館 純（昭和小） 佐々木壮一（的場中）

◇ 授業者

稲垣絵梨（太陽の子幼稚園）  
堂前智子（函館市立昭和小）  
中谷文武（函館市立高丘小）  
九千房政光（函館市立旭岡中）  
小川原愛（太陽の子幼稚園）  
水島賢久（函館市立中の沢小）  
佐々木壮一（函館市立的場中）  
櫻井 純（函館市立深堀中）

◇ 提言者

吉野貴子（函館市立戸井幼稚園）  
松田恭子（道教育大学附属函館小）  
橋本英子（帯広市立広陽小）  
石岡寿子（松前町立白神小）  
中井一夫（道教育大学附属旭川中）  
平井 歩（札幌市立啓明中）  
山崎正明（千歳市立北斗中）  
山田 光（函館市立あさひ小）  
小笠原博子（函館市立あさひ小）  
赤坂巖男（函館市立中の沢小）  
木村麻岐（北斗市立浜分中）  
眞鍋幸恵（上士幌町立上士幌中）  
冨尾 拓（道教育大学附属函館中）

◇ 助言者

小平征雄（道教育大学函館校教授）  
村國壽英（八雲町立相沼小校長）  
細川敬太郎（北斗市立久根別小校長）  
山本良子（函館市教育委員会教育指導課指導主事）  
船橋恭二（七飯町立大中山小教頭）  
泉 雄大（稚内市立天北中教頭）  
西岡裕英（渡島教育局義務教育指導班指導主事）  
仲井靖典（函館市立凌雲中教頭）  
佐藤篤正（亀田ゆたか幼稚園長）  
谷口光伸（江差町立南が丘小教頭）  
篠原 寛（札幌市立西小校長）  
佐藤昌彦（道教育大学札幌校教授）  
花岡康成（今金町立種川小教頭）  
佐々木 宰（道教育大学釧路校准教授）

◇ 司会者

小林恵理子（道教育大学附属函館幼稚園）  
三品充子（函館市立中央小）  
笠松英治（函館市立戸倉中）  
三谷龍司（函館市立北中）  
佐郷谷 滋（函館市立中の沢小）  
高島 純（七飯町立大沼中鈴蘭谷分校）  
岩館こずえ（函館市立亀田中）

◇ 記録者

阿部真琴（五稜中）  
久保杉由佳（あさひ小）  
林 弘実（湯川中）  
長峰詠子（西中）  
西 貴子（千代ヶ岱小）  
後藤博子（上湯川小）  
米田康子（潮見中）

◇ 渉外・庶務部

総務／木村伸仁（銭亀沢中）  
部長／笠松英治（戸倉中）  
佐郷谷 滋（中の沢小）  
西 貴子（千代ヶ岱小）  
後藤博子（上湯川小）  
藤川みづき（旭岡小）  
松田ちあき（神山小）

林 弘実（湯川中）  
三品充子（中央小）  
青木元子（桔梗小）  
大場育夫（港小）

滝花恵子（中央小）  
久保杉由佳（あさひ小）  
高橋喜子（駒場小）  
米田康子（潮見中）

◇ 経理部

総務／瀧本伸幸（日吉が丘小）  
部長／山形弘枝（北日吉小）  
齋藤悦子（桐花中）

岩館こずえ（亀田中）

◇ 事業・会場部

総務／松浦一秀（昭和小）  
部長／柿崎雄二（昭和小）  
小田桐郁子（昭和小）  
宮川典子（中の沢小）  
長峰詠子（西中）  
関原孝子（昭和小）  
今瀧洋子（昭和小）  
宮上慶子（昭和小）  
近藤香織（昭和小）  
浦田 治（昭和小）  
川村明子（昭和小）  
住田 茂（昭和小）  
花輪恵美（昭和小）  
岸 義人（昭和小）  
平田千絵（昭和小）  
青木久江（太陽の子幼）  
樋口菜梨乃（太陽の子幼）  
高村久美（太陽の子幼）  
田村満里子（太陽の子幼）

三上泰司（昭和小）  
高石悦朗（本通小）  
渡辺聖子（港中）  
類家光子（昭和小）  
堂前智子（昭和小）  
姥沢伸哉（昭和小）  
田中直哉（昭和小）  
高橋 聡（昭和小）  
工藤賢司（昭和小）  
仙石光子（昭和小）  
小泉みゆき（昭和小）  
菊池 洋（昭和小）  
佐々木まき（昭和小）  
金木彩子（太陽の子幼）  
木戸浦彩佳（太陽の子幼）  
野原麻記子（太陽の子幼）

古川典之（日吉が丘小）  
阿部真琴（五稜中）  
中林秀子（昭和小）  
松原美知子（昭和小）  
藤本大介（赤川中）  
大島 恵（昭和小）  
田中紀子（昭和小）  
高橋 修（昭和小）  
入江恭子（昭和小）  
犬塚富美江（昭和小）  
中村美代子（昭和小）  
高井文恵（昭和小）  
遠藤愛子（昭和小）  
砂子田美希（太陽の子幼）  
鈴木万里奈（太陽の子幼）  
岡崎佳純（太陽の子幼）

◇ 記録部

部長／中野至敏（金堀小）  
三谷龍司（北中）

横井 真（桔梗中）

吉本有佑（恵山中）



平成22年度生涯学習振興奨励事業費補助事業  
(北海道教育委員会)